<u>整</u>理番号 5-12

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事:	務事業	名	雄武町戦没有	当追悼 式	t				
	担当課・係名は保健福祉課社会福祉係								
評	価	者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査	
			林	氏名	葛 西 隆	TF,队1目	氏名	武藤知憲	
事	事業の概要 過ぐる戦争における雄武町戦没者の英霊に対し、追悼の誠を捧げるとともに、平和への誓いを新たにすることを目的とし、雄武町戦没者追悼式を実施する。								
	第5期総合計画 ■登載事業 □非登載事業								
			政 策 目 🥫	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	▪福祉	の充実~	
車場	美の位置(+ (+	基本政策	策 10	地域福祉の推進				
 	といい回り	(וני	単位施	策 1	福祉意識の醸	成			
			事務事業の種	類	自治事務	□法定受託	事務		
			その他計画・	根拠等					
			年	度 引	⁷ 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
	業コス	•	総事業	費 1	,143千円	150	千円	170千円	
	(実績)		総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		,143千円	150	千円	170千円	

【抱える課題やニ	平和と繁栄を築いた先人に 対する敬愛及び平和に慣れ、		理論上の成果指標) 追悼式の開催		
ーズは】	戦争の惨劇を忘れるおそれ がある。	指標	指標(指標計算式/解説)		び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	常に平和と繁栄を築いた先 人に対する敬愛と平和への 誓いを新たにする。		① 開催回数	目標年度 目標 値 実 積 値 度	19年度 1回 1回 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】	先人に対する敬愛と恒久平 和が維持される。		2	目標年度 目標値実績値	年度
※成果=目的	内 容(どのような	手段	<u> </u> で何を行ったか)	達成度	%
①追悼式の開催	過ぐる戦争における雄武町 平和への誓いを新たにする				
2					
3					

_		/ - 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
-2	事務事業の評価	(Chack)
.,	35 / 7 35 36 V / 8T IIII	· CHIGGE

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

5 その他特記事	項	
〇継続/現状維持	・ マは 拡充 又は 縮小 又	スは 統合 〇終了 〇休止 〇廃止
*展開方向の区分		
ه <i>ده</i> ده		
る追悼の誠を捧げ、	と繁末を築いた元人 平和への誓いを新た 引き続き実施すべき	cにする
	・ /現状維持 と繁栄を築いた先人	1- 3+ ± 1
今後の展開方	(Action)	
	、計画どおり事業を	
願うためにも戦没	っない者に対し、恒久 者追悼式の開催は必 「として、平和祈願に	要不可
	A	
C:事業規	_ ビおり事業を進めるこ	ことが適当 B:事業の進め方等に改善が必要
的/課題あり	□その他	
効率的/概ね効率	□時間短縮·作業 軽減	
効率的	■事業費抑制 ■人員抑制	抑制し、協力人員の抑制及び準備時間も短縮もすることがで きている。これ以上のコスト削減の余地はない。
(O) 	判断の理由	平成18年度より屋内開催にすることで、祭壇に係る経費を
✓課題あり (3) 事務事業の効果	□下回る	<u> </u> oた効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)
有効/概ね有効	□ほぼ達成	
有 効	の達成状況 ■達成	対する敬愛及び平和への誓いを新たにすることができた。
(2) 事務事業の有效 	効性 (期待する効果だ │設定した目標値	が得られたか) 当該事業を実施したことにより、平和と繁栄を築いた先人に
必要/概ね必要/ 課題あり		希薄となる。
	□全部 □一部	該事業を実施しない場合、戦争の惨劇などが現代に生きる世代に伝わらず、平和への誓いや先人に対する感謝の気持ちが
必要	□義務的なもの	本町のおける平和と繁栄を築いた先人に対する追悼の誠を 捧げ、平和への誓いを新たにするため必要な事業である。当

<u>整</u>理番号 5-13

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事:	務事	業名	雄武町社会社	雄武町社会福祉協議会補助事業						
			担当課·係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係						
評	価	者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	係長		
			林文寺	氏名	葛 西 隆	TFIX有	氏名	宇野敏志		
事	業の	の概要 地域福祉活動の中核的な役割を担っている社会福祉協議会の組織強化、運営基盤の安定を図ることを目的として、事務局職員1名分の人件費の一部補助を行う。								
			第5期総合計画 ■登載事業 □非登載事業							
			政 策 目 🕏	漂 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	• 福祉	の充実~		
車場	▮の付き	置付け	基本政策	策 10	地域福祉の推	進				
 	といい	트기기	単位施	策 1	福祉意識の醸	成				
			事務事業の種類	類	目治事務	□法定受託	事務			
			その他計画・	根拠等	雄武町社会福	祉法人の助成に	関する	条例		
			年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
1	-14	スト	総事業	費 6	,670千円	3, 000	千円	3,000千円		
	(実)	漬)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		,670千円	3, 000	千円	3,000千円		

【誰、何が (対象)】	雄武町社会福祉協議会		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	t状況を聞	きも :	端的に表す 		
【抱える課題やニ 一ズは】	運営基盤が脆弱である。			lla.	運営基盤の安定			
		指	指標(指標計算式/解説)			び実績値		
【どのような状態		標	① 運営基盤の安定	目標年		19年度		
	 事業運営の円滑化を図る。			日標.		3000 千円		
すのか(意図)】	ず木圧白の口用して白る。	目標	/人件費1名分の補助	実績	値	3000 千円		
9 07/17、(本四/1		標		達成	度	100%		
【その結果、どの	タ乗りは短かに動りずこと		2	目標年	度	年度		
ような成果を実現	各種地域福祉活動やボラン			目 標	値			
したいか】	ティアの育成などが積極的 に実施される			実績	値			
※成果=目的	に実施される。			達成	度	%		
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)					
①社会福祉協議会へ	、 雄武町社会福祉協議会に対	して、	専門員1名分の人件費の	の補助を	行う			
の運営費補助		• .	W 128 - A22	- 123 C				
2								
2								
3								

				<u>e</u>
3 事務事業の評	** * *	・ヘキ劫!		こい平じとフム、 火法市政
	• •		に照らして妥当か、町が担う 死存事務事業との機能重複や	
	□義務的なもの		社会福祉活動を推進するた	め、行政として支援する必
必要	口全部 口一部	要があ	16.	
必要/概ね必要/	-			
課題あり				
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)	
Г <u>.</u>	設定した目標値 の達成状況	補助の)実施により、各種事業が円	滑に実施された。
有効	●達成仏流	-		
 有効/概ね有効	□ほぼ達成			
/課題あり	□下回る			
(3) 事務事業の効率	峄性 (コストに見合っ	た効果な	が得られたか、計画上のコス	トを下げる工夫をしたか)
	判断の理由		9年度より、人件費2名分が	
効率的	■事業費抑制	が、連 業であ	営基盤の安定を図るために- る。	も、引き続き実施すべさ争
	┃ □人員抑制 - □時間短縮・作業			
効率的/概ね効率	一旦时间及椭*TF未 軽減			
的/課題あり	□その他			
4 総合評価【A	~: D1			
	—	ことが適	i当 B:事業の進め方	ī等に改善が必要 ────────────────────────────────────
			しが必要 D:事業の統合、	
自己評	価 (一次評価)		評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A		A	
	な担い手である社会			
	R定を図ることは、町 T欠であることから、			
おり事業を進めるこ		H. — —		
今後の展開方	向 (Action))	<u> </u>	
継続	/現状維持		継続/現状維持	
	展に必要不可欠であ またごさ恵業でする	ること		
かり、引き枕さ夫加 	近すべき事業である。			

5 その他特証	7事項		

〇終了

〇休止

〇廃止

*展開方向の区分 **〇継続/現状維持**又は**拡充**又は**縮小**又は**統合**

<u>整</u>理番号 5-14

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事	務『	事業	名	雄武町	雄武町民生児童委員協議会運営補助事業								
				担当課	係名	保健	福祉	业課社会	≩福祉係				
評	ſi	西	者	課長	华	職名	2	保健福	祉課長		作成者	職名	主査
				林文	च	氏名		葛西	隆		TF风伯	氏名	武藤知憲
事	民生委員・児童委員の基本理念に基づき、地域における高齢者等の生活状況の把 事業の概要 握や相談援助指導等を行い、地域福祉の推進を担っている、雄武町民生児童委員 協議会の活動の充実を図ることを目的として、運営費の補助を行っている。												
		第 5 期総合計画 ■登載事業 □非登載事業											
				政策	目:	標	2	ぬくも	り・雄	武町	~保健・医	療・福	祉の充実
車場	ŧ Λ.l·	立置付	-1+	基本	政	策	10	地域福	祉の推	進			
* 7	EUJI	ᄯᇉᄁ	1)	単 位	施	策	1	福祉意	識の醸	成			
				事務事	業の種	類	É	治事務	i		□法定受託	事務	
				その他記	計画・	根拠等	Ē						
				年		度	平	成18	年度		平成19年	度	平成20年度(予定)
1	•••	コス	۲	総事	業	費		5	3千円		5 3	千円	5 3 千円
	(実	績)		総事業費 町が負担 (一般				5	3千円		5 3	千円	53千円

【誰、何が (対象)】	雄武町民生児童委員協議会		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	(状况を取も)	^塩 の は は は は は は は は は は は は は は は は は は は
【抱える課題やニ 一ズは】	高齢者等を取り巻く環境が 大きく変化する中、担当地区 における課題も多様化して		運営補助金の交付		
7/16/	いる。	指揮	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態		標/	① 交付実績	目標年度	19年度
になることを目指	事業運営基盤の安定を図る。	目		目標値 実績値	53千円
すのか(意図)】		標		達成度	%
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現したいか】	高齢者等が安心して生活することができる。			月 標 値 実 績 値	
※成果=目的	9 C C N C C 8 0			達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①雄武町民生児童委					
■ 員協議会への運営 ■ 費補助					
2					
3					

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

(1)	事務事業の必要性	(町民ニーズ	・ 社会情勢に	照らして妥当かん	、町が担う必要	があるか。	当該事務
	事業を乳	実施しない場合	♪の支障、既存	字事務事業との機	とととします というと という とうしょ とうしょ とうしょ とうしょ とうしょ とうしょ しょう とうしょ しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	による対応	た可能性)

	· ·		に照らして妥当か、町が担 [∙] ₹存事務事業との機能重複や				
必 要 必要/概ね必要/ 課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	高齢者 委員の 交付は ける事	を取り巻く環境が大きく変 責務は大きくなっており、[必要である。当該事業を実 業も縮小するため運営に支 活にも影響を及ぼす。	化する中、民生委員・児童 団体における運営補助金の 施しない場合、協議会にお			
	<u> </u> 効性 (期待する効果 <i>だ</i>	が得られ	<i>t- t</i> n)				
有 効	設定した目標値 の達成状況 ■達成 □ほぼ達成	当該事	7-207 業を実施したことにより、1 を果たし、町民の生活に支				
/課題あり	□下回る						
(3) 事務事業の効率			が得られたか、計画上のコス				
効率的	判断の理由 事業費抑制人員抑制時間短縮・作業	実施し こ う し	童委員協議会の活動は、担当 、生活状況の把握にも努めて た経費にも充てられ、必要 スト削減の余地はない。	ている。町からの補助金は、			
効率的/概ね効率 的/課題あり	軽減 ■その他						
4 総合評価【A~D】 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方等に改善が必要							
A:計画	~D】 どおり事業を進めるこ		当 B:事業の進め方 しが必要 D:事業の統合、				
A:計画	~D】 どおり事業を進めるこ 現模、内容、実施主体						
A:計画 d C:事業規	~D】 どおり事業を進めるこ 現模、内容、実施主体		しが必要 D:事業の統合、	休・廃止の検討が必要 -			
A:計画を C:事業表 自己評 行政と住民のパイプ 生児童委員協議会が も必要不可欠なもの	~ D】 どおり事業を進めるこ 現模、内容、実施主体 は 価 (一次評価) 「役も担っており、雄が円滑に運営される」 である。町民の生活しても、計画どおり事	本の見直 武町民 ためび福	しが必要 D:事業の統合、	休・廃止の検討が必要 -			
A:計画を C:事業表 自己評 行政と住民のパイプ 生児童委員協議会が も必要不可欠なもの 社の向上を図るうえ	~ D】 どおり事業を進めるご規模、内容、実施主体 「価(一次評価) 「役も担っており、雄が円滑に運営される」である。計画どおり事	本の見直武の見にこれます。	しが必要 D:事業の統合、	休・廃止の検討が必要 -			
A:計画を C:事業表 自己評 行政と住民のパイプ 生児童委員協議会が も必要不可欠とが適当とが かることが適当と判 今後の展開方	~ D】 どおり事業を進めるご規模、内容、実施主体 「価(一次評価) 「役も担っており、雄が円滑に運営される」である。計画どおり事	本の見直武の見にこれます。	しが必要 D:事業の統合、	休・廃止の検討が必要 -			

〇終了

〇休止

〇廃止

5 その他特記事項

*展開方向の区分 **〇継続/現状維持**又は**拡充**又は**縮小**又は**統合**

<u>整理番号 5-15</u>

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

	公 公、					※ ■ . 該目			
事務事業名	雄武町遺族:	雄武町遺族会運営補助事業							
	担当課·係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係							
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査			
		氏名	葛 西 隆	TF风石	氏名	武藤知憲			
事業の概要	英霊の慰霊顕	彰に努め		の処遇改善の仮		誓いを新たにすべく 武町遺族会の活性化			
	第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業				
	政 策 目	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~			
┃ ┃事業の位置付け	基本政	策 10	地域福祉の推進						
事業の位置的け	単 位 施	策 1	福祉意識の醸成						
	事務事業の種	類 ■自	自治事務	□法定受託	事務				
	その他計画・	根拠等							
	年	度平	" 成18年度	平成19年	度 :	平成20年度(予定)			
事業コスト	総事業	費	40千円	4 0	千円	4 0 千円			
(実績)	総事業費の内域 町が負担した金 (一般財源)		4 0 千円	4 0	千円	4 0 千円			

【誰、何が (対象)】	雄武町遺族会		│望ましい指標 (目的達成 │理論上の成果指標)	状況を最も!	端的に表す			
【抱える課題やニ ーズは】	処遇改善の促進と活性化	lla.	運営補助金の交付					
_		指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値			
【どのような状態		標	① 交付実績	目標年度	19年度			
になることを目指	事業運営基盤の安定を図る。	_		目 標 値				
すのか(意図)】	争未建呂基盤の女足を囚る。	且		実 績 値	40千円			
9 のか、(忠凶)】		標		達成度	%			
【その結果、どの			2	目標年度	年度			
ような成果を実現	雄武町遺族会の振興と活動			目標値				
したいか】	の推進が図られる。			実績値				
※成果=目的				達成度	%			
内 容(どのような手段で何を行ったか)								
①雄武町遺族会への	運営補助金の交付							
運営費補助								
2								
3								

3	事務事業の評価	(Check)
J	争物争未以計画	CHECK

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要がある	るか。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障、	既存事務事業との機	能重複や見直しによ	る対応可能性)

事業					見直しによる対応可能性)
>, =	□義務的なもの				遺族で組織されている雄武 ついては、平和と繁栄を築
必要	口全部 口一部				がそれを維持することは必
 必要/概ね必要/	_				場合、事業運営にも支障を
課題あり		* なる。	、ての桁米	、戦反台に対り	る感謝や敬愛の念も希薄と
(2) 事務事業の有効	効性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)		
有効	設定した目標値 の達成状況		業を実施し された。	たことにより、	雄武町遺族会の活動や運営
13 293	■達成				
有効/概ね有効 /課題あり	│□ほぼ達成 □下回る				
		<u></u>	が得られたか	い、計画上のコス	 、トを下げる工夫をしたか)
(5) 7 33 7 20 21	判断の理由				の安定を図るため必要最低
効果的	□事業費抑制	限の補	助であり、	コスト削減の余	地はない。
NA H J	□人員抑制				
 効率的/概ね効率	一時間短縮・作業				
的/課題あり	軽減 ■その他				
	どおり事業を進めるこ				5等に改善が必要 - 休・廃止の検討が必要 -
自己評	· 価(一次評価)		評価会議	评価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α				
	ある戦没者の遺族で				
	ξ会に対して、会の振 〖営費の補助を行って				
運営費の補助を行う	ことで、協会活動の	スムー			
│ ズな運営が促進され │ 進めることが適当と	ιるため、計画どおり ・判断する。	事業を			
今後の展開方[(Action))			I
継続	/現状維持				
	ある戦没者の遺族で				
れている雄武町遺族会に対する補助金の交付 については、平和と繁栄を築いた先人に対する					
	常費の補助を行うこと などの迷さた。それは				
■ 会沽動の沽動や連呂 ■ 現状維持が適当であ	が促進されるため、 うる。	当分は			
	-				
*展開方向の区分					
〇継続/現状維持	持又は 拡充 又は 縮小 又	は 統合	〇終了	〇休止 ()廃止
5 その他特記事	竹首				

<u>整理番号 5-16</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	紋別地区保認	紋別地区保護司会雄武支部運営補助事業							
	担当課·係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係							
評 価 者	======================================	職名	保健福祉課長	/h dt +k	職名	主査			
	課長等	氏名	葛 西 隆	──── 作成者 ───	氏名	武藤知憲			
事業の概要	更生を支えるが	地域住民の理解と協力のもとに、犯罪や非行の防止、又は犯罪を犯した人の自立 更生を支えるための活動を支援するとともに、紋別地区保護司会の活性化を図る ため、運営費の補助を行っている。							
	第5期総合計画	画	■登載事業 □非登載事業						
	政策目	票 2	ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜						
古巻の片架みは	基本政策	策 10	地域福祉の推進						
事業の位置付け	単位施	策 1	福祉意識の醸成						
	事務事業の種類	類 ■ 自	□法定受託事務						
	その他計画・村	根拠等							
	年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)			
事業コスト	総事業	費	30千円	3 0	千円	3 0 千円			
(実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		30千円	3 0	千円	30千円			

【誰、何が (対象)】	紋別地区保護司会雄武支部		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	ҟ状況を最も₃ 	端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	犯罪や非行の防止、又は罪を 犯した人の自立更生を支え		運営補助金の交付		
	るための活動支援	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態		標	① 交付実績	目標年度	19年度
	! - 事業運営基盤の安定を図る。	_		目標値	
すのか(意図)】	尹未建呂を盗の女足で囚る。 	目		実 績 値	30千円
9 のか、(忠凶)』		標		達成度	%
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現	ᆝ			目標値	
したいか】	犯罪や非行の減少			実績値	
※成果=目的				達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①紋別地区保護司会	★ 補助金の交付				
雄武支部への運営					
補助					
2					
3					

3	事務事業の評価	(Check)
---	---------	---------

(1) **事務事業の必要性**(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務 事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

7.5%			11 F 10 F A C				
A	□義務的なもの				犯罪や非行の防止、または		
必要	□全部 □一部				ためにも補助金による助		
					しない場合、犯罪や非行の		
必要/概ね必要/			」止を行う活動 こも支障を来た		た人の自立更生を支える		
課題あり		治期に	-も文牌を未た	-9 °			
(2) 事務事業の有効	防性 (期待する効果が	が得られ	たか)				
	設定した目標値	当該事	事業を実施し <i>た</i>	ことにより、糸	対別地区保護司会雄武支部		
有 効	の達成状況	におけ	ける支部活動 <i>σ</i>)運営が促進さ	れた。		
13 783	■達成						
 有効/概ね有効	□ほぼ達成						
一一	□下回る						
		+- か田 -	が但こわたか		 トを下げる工夫をしたか)		
(3) 争務争系の別点	<u> </u>	,					
	判断の理由				武支部の基盤の安定を図る		
】 効率的	□事業費抑制	15 ØJ	安取仏派の相	即じめり、コ	スト削減の余地はない。		
1,00	□人員抑制						
	□時間短縮・作業						
効率的/概ね効率	軽減						
的/課題あり	■その他						
	どおり事業を進めるこ				7等に改善が必要 - 休・廃止の検討が必要 -		
自己評	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)		
	A						
犯罪や非行の防止。	 又は罪を犯した人の	白立更					
	動を支援するために						
	可欠であり、計画ど						
業を進めることが通	5当と判断する。						
				_			
今後の展開方	(Action))					
維続	/現状維持						
	いて、犯罪も多様化	してお					
	:然防止、又は罪を犯						
	ためにも、支部活動						
ーズな運営が促進さ	れるため、当分は現	状維持					
が適当である。							
* 展開方向の区分			l				
	 	は統合	〇終了	〇休止 () 廃止		
	A MANAGE AND THE PERSON NAMED IN	.,	- 17 -				
5 その他特記事	項						

<u>整</u>理番号 5-17

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· -						711 - 1 A71 -		
事務事業名	雄武町人権擁護委員協議会運営補助事業							
	担当課·係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係						
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	<i>佐</i> +	職名	主査		
	林 友 寺	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲		
事業の概要		ととも				下的人権を守るための 図るため、運営費の補		
	第5期総合計画	■ ₹	養載事業	□非登載事	業			
	政策目標	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜						
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	10	10 地域福祉の推進					
■ 争来の位直的り ■ ■	単 位 施 策	1 福祉意識の醸成						
	事務事業の種類	= É	目治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・根拠	処等						
	年 度	<u> </u>	[成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費		15千円	1 5	千円	15千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		15千円	1 5	千円	15千円		

【誰、何が (対象)】	雄武町人権擁護委員協議会		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	ҟ状況を最も∮ 	端的に表す
┃ 【抱える課題やニ ーズは】	地域住民の基本的人権を守 るための活動支援		運営補助金の交付		
		指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態		標	① 交付実績	目標年度	19年度
_	 事業運営基盤の安定を図る。	_		目標値	
すのか(意図)】	ず未连占坐血の女だで囚る。	目		実績値	15千円
,07/3、(忠四/1		標		達成度	%
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現	地域住民の基本的人権が守			目 標 値	
したいか】	られる。			実 績 値	
※成果=目的				達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①雄武町人権擁護委	│補助金の交付				
員協議会への運営					
補助					
2					
3					

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

» -	□義務的なもの				通じて、地域住民の基本的人権
必要	□全部 □一部				こ、人権擁護委員協議会の活性 りにも、補助金の助成は必要で
				Eしない場合、基 る支援に影響を及	本的人権を守るための活動が
課題あり				3又抜に 彩音でぬ	राद्र १ 。
(2) 事務事業の有效	奶性 (期待する効果 <i>が</i>				
有 効	設定した目標値の達成状況			ことにより、相 ことができた。	談業務等を通じて、町民の
	│ <mark>■</mark> 達成 │□ほぼ達成				
┃ 有効/概ね有効 ┃ /課題あり	□下回る				
	-	た効果が	が得られたか	、計画上のコス	よりでであれる。 よりでである。 よりである。 とりでもる。 よりでもる。 よりでもる。 よりでもる。 とりでも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 と
	判断の理由	町の補	助は、雄武町	人権擁護委員	協議会の基盤の安定を図る
効率的	□事業費抑制	ため必	要最低限の補	輔助であり、コ	スト削減の余地はない。
773 113	□人員抑制				
 効率的/概ね効率	□時間短縮・作業				
的/課題あり	軽減 ■ その他				
- An A F	, , , , , ,				
4 総合評価【A	~D】 どおり事業を進めるこ	- レが滴	· · ·	・事業の進めす	5等に改善が必要 〜
					休・廃止の検討が必要 ―
自己評	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
	域住民の基本的人権				
	人権擁護委員の活動 「欠なものである。こ				
	T人なものである。こ ·画どおり事業を進め				
が適当と判断する。					
今後の展開方	(Action))			
継続	/現状維持				
	を守ることは、安心	して生			
	要であり、活動のス				
│な連宮が促進される │当である。	ため、当分は現状維	持が適			
1000					
・展問ナウのロハ					
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	ば 統合	〇終了	O休止 (〇廃止
	·T百				
5 その他特記事	'快				

<u>整</u>理番号 5-18

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· ナ 切テネツ						<u> </u>
事務事業名	法外援助費					
	担当課·係名 (保健福	业課社会福祉係			
評 価 者	== 生	職名	保健福祉課長	ルボネ	職名	主査
	課長等──」	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲
事業の概要		独居:	老人世帯、在宅	障害者等を対象	に、明	N運動」を実施してお 引るく楽しい正月を迎 旦する。
	第5期総合計画	■登	養載事業	□非登載事	業	
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	11 社会保障制度の充実				
事業の位置的け	単 位 施 策	4	低所得者の自	立の支援		
	事務事業の種類	■É	目治事務	□法定受託	事務	
	その他計画・根拠	処等				
	年 度		² 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業費		200千円	1 4 0	千円	200千円
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		200千円	1 4 0	千円	200千円

【誰、何が(対象)】	低所得者等		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ 一ズは】	低所得者等に対する支援	指	義援金の扶助 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	明るく楽しい正月を迎える こと。	標/目標	① 支給件数	目標年度 19年度 目標値 33件 実績値 33件 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	正月に一定の潤いのある生 活が送られる。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①義援金の拠出	歳末助け合い運動を実施し、 支給する義援金の一部を負担			在宅障害者等を対象に
2				
3				

\sim	事務事業の評価	/ ヘト・・1・ハ
	半 水 半 羊 //) = 业 (m)	I I TOPOKI

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要があるか	、。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障。	既存事務事業との機	能重複や見直しによる。	対応可能性)

	□義務的なもの	12月(歳末)における町民の安定した生活を送るためにも
概ね必要	□全部 □一部	共同募金会雄武分区が実施する「歳末助け合い運動」に対し 義援金の一部を負担することは必要である。当該事業を実施
必要/概ね必要/		しない場合、義援金を必要とする世帯に影響を及ぼす。
記録として 課題あり		
(2) 事務事業の有效	妫性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られたか)
	設定した目標値	当該事業を実施したことにより、12月(歳末)における要
有 効	の達成状況	保護世帯等の生活に支障を来さなかった。
	│ <mark>■</mark> 達成 │□ほぼ達成	
┃有効/概ね有効 ┃/課題あり	□下回る	
	-	└── ・た効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)
(0) 713772033	判断の理由	平成18年度まで、定額により補助しておりましたが、平成
*** *** */-	■事業費抑制	19年度から、雄武町社会福祉協議会との折半により負担し
効率的	□人員抑制	ている。
	□時間短縮・作業	
効率的/概ね効率	軽減	
的/課題あり	□その他	
l l	_ ビおり事業を進めるこ	ことが適当 B:事業の進め方等に改善が必要 ¬ 本の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要 ~
自己評		評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価)
	Δ	
<u></u> 働くことができない	 町民などの、要保護	
	は必要不可欠であり	
	そ維持することは、	
	:を図るうえでも、計 :が適当と判断する。	
今後の展開方)
継続。	/現状維持	
	ける町民の安定した	· · · ·
	て町の支援は必要で ·支援することで、要	
	文媛することで、安 生活に一定の潤いを	
ことができ、当分は	現状維持が必要であ	53.
・日明ナカネラハ		
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	;又は 拡充 又は 縮小 又	スは 統合 〇終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事	項	

<u>整</u>理番号 5-19

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事	務	事業	名	石油価	石油価格高騰緊急対策事業										
				担当課・係名 保健福祉課社会福祉係											
評	個	6	者	課長	生	墹	名	保健福祉	上課長		作成者	職名	社会福	祉係長	
				本本	रच	氏	名	葛 西	隆		TF风伯	氏名	宇野敏	志	
事業の概要 石油価格の高騰により、多大な影響を受ける高齢者世帯等の低所得者層に対し、 緊急措置的支援対策として、灯油購入費の一部を助成する。															
				第5期	総合計	画	□₫	養載事業			非登載事	業			
				政策	目	標	2	ぬくもり	ノ・雄	武~伊	呆健・医療	▪福祉	の充実~		
車	きのた	立置付	+ ++	基本	政	策	7	高齢者支援の充実							
*	FVY	7 回 小	, , ,	単位	施	策	2	生活支持	髪の充	実					
				事務事	業の種	類	=	1治事務			法定受託	事務			
				その他	計画・	根拠	等	平成 19	年度	石油	価格高騰	緊急対	策 事 業	実施要約	綱
				年		度	平	成18年	度	<u> </u>	^Z 成19年	度	<u> </u>	年度(予	定)
事		コス	۲	総事	業	費			千円	2	2, 295	千円	3,	F000	F円
	(実	績)		総事業 町が負担 (一月		金額			千円	_	1, 795	千円	2,	500 1	F円

【誰、何が (対象)】	高齢者等の低所得世帯		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	対況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	原油価格の高騰により、灯油 価格が高騰している。	+6	当該世帯数	
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	灯油購入費の一部を助成する。	指標/目標	指標(指標計算式/解説) ① 実績世帯 /対象世帯の申込実績	目標値及び実績値 目標年度 19年度 目標値 282世帯 実績値 233世帯 達成度 82.6%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	冬期間の生活の安定も一助 となる。		2	日標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①非課税世帯等への灯油購入費の助成	町民税非課税世帯の高齢者	世帯等	等に対し、10 千円分の灯	油購入券を配布する。
2				
3				

2 声致声类不証	海(Chaok)				
3 事務事業の評(1) 事務事業の必要	• •	·全信埶/	-昭らし-	アダムか 町が知	う必要があるか。当該事務
					り見直しによる対応可能性)
	□義務的なもの		者世帯に	対する緊急措置的	的支援対策として必要であ
必要	□全部 □一部	る。			
必要/概ね必要/					
課題あり					
(2) 事務事業の有效	妫性 (期待する効果 <i>カ</i>	が得られ	たか)		
	設定した目標値	当該世	帯の冬期	間の生活安定の一	-助となった。
有効	の達成状況	-			
	│ <mark>■</mark> 達成 │□ほぼ達成				
┃ 有効/概ね有効 ┃ /課題あり	□下回る				
	-	た効果が	ぶ得られた		ストを下げる工夫をしたか)
(0) 31 333 31 51 4 4 4 5 5 5 5	判断の理由				と費の削減を行った。 と
热板的	■事業費抑制	×3 (1)	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	13.1 1-10.1 0 (1-10.334)	250011111111111111111111111111111111111
効率的	□人員抑制				
	□時間短縮・作業				
効率的/概ね効率	軽減				
的/課題あり	□その他				
4 総合評価【A	~D1				
	ヹおり事業を進めるこ	ことが適	当	B:事業の進めた	方等に改善が必要 -
L C:事業規	見模、内容、実施主体	本の見直	しが必要	D:事業の統合、	_休・廃止の検討が必要 <i>−</i>
自己評	価(一次評価)		評価会詞	義評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
	期間の生活の安定の	一助と			
なった。					
今後の展開方向	(Action)	`			
フ俊の展開力	(Action)	,		•	—
4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4					,
	グングループ しており、低所得者	世帯の			
冬期間における生活	の安定を図るには、				
き事業を行う必要が	ぶある 。				

5 その他特記事項

*展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合

平成20年度においても緊急措置的支援対策として、当該事業を行う。

〇終了

〇休止

〇廃止

<u>整</u>理番号 5-20

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	介護予防・生活	介護予防・生活支援事業							
	担当課·係名	R健福祉課社会福祉係							
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長			
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TF队但	氏名	宇野敏志			
事業の概要	在宅高齢者が要介護状態への進行を防止するため、特別養護老人ホームの空き部 屋を活用して短期の宿泊を行うことにより、生活習慣等の指導及び体調調整を図 る。								
	第5期総合計画	三 登	■登載事業 □非登載事業						
	政 策 目 標	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜							
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の	充実					
事業の位置的け	単 位 施 策	2	生活支援の充実						
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務							
	その他計画・根	処等	介護保険計画	• 高齢者保健福	祉計画	Ī			
	年 度	平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)			
事業コスト	総事業費		0千円	0	千円	200千円			
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		0千円	0	千円	150千円			

【誰、何が (対象)】	在宅高齢者		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す			
【抱える課題やニ 一ズは】	基本的生活習慣の欠如等により社会生活を営むことが 困難である。	11-	利用者数の確保				
	内無である。	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値			
【どのような状態	生活習慣等の指導を行い、要	標/	① 利用回数 	│目標年度 │ 1 9 年度 │ │目 標 値 │			
になることを目指 すのか (意図)】	介護状態への進行を予防する。	目標	/事業の利用者数の実	実績値 0人			
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			績	達 成 度 0%			
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】	高齢者が健康で生き生きと 暮らしていけるよう支援を		2	目標年度 年度 目標値 実績値			
※成果=目的	行う。			達成度 %			
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)				
①事業の委託	①事業の委託						
2							
3							

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

争未	を美肔しない場合の	文牌、以	【任事務争未の	この筬肥里復つ	9見直しによる対応可能性)
概ね必要	□義務的なもの □全部 □一部		活が困難な高 要な事業であ		幾能低下の予防を図るため
 必要/概ね必要/ 課題あり					
	物性 (期待する効果 <i>が</i>	が得られ	たか)		
	設定した目標値	本年度	の利用はない	いが、一時的に	在宅生活ができない高齢者
有 効	T政が実施する必要がある。				
	■達成 □ほぼ達成				
/課題あり	■下回る	#- 幼田#	ジタこわたか	共画しのコー	フレ <i>も</i> 下げてエナカリナか)
(3) 事務事業の別名					ストを下げる工夫をしたか) 社会福祉協議会へ委託し、
	判断の理由		夫他にめたっ の低減に努め		任云徳性励武云へ安託し、
概ね効率的	■事業費抑制 □人員抑制		12000		
	- □時間短縮・作業				
効率的/概ね効率	軽減				
的/課題あり	□その他				
	どおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 休・廃止の検討が必要
自己部	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A			4	
計画どおり事業を過 潜在的ニーズの把	高齢者に対する事業で 進めることが適当であ 握や特別養護老人ホ にり、適切な事業計画	るが、 一ムの			
今後の展開方	(Action))		ļ	<u> </u>
継続	/現状維持		継続/	現状維持	
	図るためにも、現状			とする考え方	
週目であり、写像に に努めることとする	tニーズの把握と事業 う。	の合発	ること。	立場から考え	
	•			ったことは、	
				トがいなかっ ることができ	
				サービスが一	
			般に周知さ	れているのか	
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	持 又は 拡充 又は 縮小 又	ば 統合	の終了		〇廃止
5 その他特記事	項				

<u>整理番号 5-21</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	老人福祉施設措置費							
	担当課·係名 保	聚名 保健福祉課社会福祉係						
評価 者	課長等	哉名	保健福祉課長	作成者	職名	主査		
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TF/队相	氏名	武藤知憲		
事業の概要	65歳以上の者であって、環境上の理由及び経済的な理由によって、居宅で養護することが困難な者に対し、養護老人ホームに入所させ、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な措置を講じている。							
	第5期総合計画	■ ∄	■登載事業 □非登載事業					
	政 策 目 標	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜						
事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の充実					
事業の位直的() 	単 位 施 策	2	生活支援の充実					
	事務事業の種類	□ □自治事務 ■法定受託事務						
	その他計画・根拠	监等	老人福祉法、	老人福祉施設入	.所等措	置事務取扱要綱		
	年 度	平	[成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	2 (), 401千円	20, 745	千円	21,681千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)	1 4	1,758千円	14, 563	千円	15, 296千円		

【誰、何が(対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す				
【抱える課題やニ ーズは】	措置の対象と見られる老人 の発見及び指導	指	措置費給付の継続 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値				
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	老人とその家族との調和を 欠く家庭の減少	標/目標	① 措置人数	目標年度 19年度 目標値 12人 実績値 12人 達成度 100%				
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	老人とその家族との調和の とれた家庭の形成		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %				
	内 容(どのような手段で何を行ったか)							
① 措置の決定	相談者の申し出に基づき、	調査	を行い、措置の決定を行う	ō.				
② 措置費の支給	措置依頼している事業所に対	対し、	措置費の支給を行う。					
3								

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

	□義務的なもの				家庭において、65歳以上で			
必要	口全部 口一部				難な者にとって、養護老人ホー ができないものであり、当該			
	-	事業を			F必要とする者に影響を及ぼ			
課題あり		す。						
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)					
	設定した目標値 の達成状況				、措置を必要としている老人			
有効	の達成仏流 ■達成	こ対し	/、支障を来る	さなかった。				
 有効/概ね有効	□ほぼ達成							
/課題あり	□下回る							
(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)								
	判断の理由	事業費	等支弁額が決	央定している	ため、コスト削減の余地はな			
効率的	□事業費抑制	い。						
>>J — H J	□人員抑制							
	□時間短縮•作業							
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減							
可/味趣のり	■その他							
4 総合評価【A	~D]							
	どおり事業を進めるこ	ことが適	当 B	: 事業の進め	か方等に改善が必要 一			
└ C:事業規	見模、内容、実施主体	本の見直	しが必要 D	: 事業の統合	合、休・廃止の検討が必要 🚽			
自己評	自 己 評 価 (一次評価) 評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価)							
A								
	で養護することが困							
	所は必要不可欠なも							
	、して現状を維持する Łの向上を図るうえで							
	ることが適当と判断							
A# 0 = 88 + 1	(4	`						
今後の展開方「	(Action)						
614 6 ±	/TEI /LL 4/# +±							
	/現状維持	·····						
	健康の保持及び生活の らり、老人の福祉を増							
	いら、引き続き実施す							
	t法においても、老人							
	していることから、当	分は現						
状維持が適当である	10							
・展開を白みなり								
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持	持又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止			
			- 17 -					
5 その他特記事	·項							

<u>整</u>理番号 5-22

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事 矜	§ 事 業 名	雄武町老人ク	雄武町老人クラブ連合会運営補助事業						
		担当課・係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係						
評	価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長		
		林区寸	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	宇野敏志		
事業	きの 概 要		ブの活性化と地域における親睦・交流を深め、高齢者の福祉向上を図る 武町老人クラブ連合会の運営費補助を行う。						
		第5期総合計画	画	登載事業 □非登載事業					
		政策目标	票 2	ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜					
車 坐 /	の位置付け	基本政策	策 7	高齢者支援の	充実				
尹木	の位目がい	単位施	策 3	社会参加の促進					
		事務事業の種類	類 ■自	■自治事務 □法定受託事務					
		その他計画・村	根拠等	高齢者保健福	祉計画				
		年	度平	² 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
		費 1	,000千円	1, 000	千円	1,000千円			
(}	実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		732千円	675	千円	700千円		

【誰、何が (対象)】	老人クラブ会員		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	ネ状況を最もウ 	端的に表す 	
【抱える課題やニー 一ズは】	高齢者人口の増加		連合会組織数			
		指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値	
「どのトンな仕能	高齢者が健康で生き生きと	標	① 連合会組織数	目標年度	19年度	
	暮らしていけるよう支援を			目標値	1 団体	
	行う。	目		実績値	1 団体	
90001(总图/1	11 2 0	標		達成度	100%	
【その結果、どの			2	目標年度	年度	
ような成果を実現	高齢者の健康増進と福祉向			目標値		
したいか】	上が図られる。			実 績 値		
※成果=目的				達成度	%	
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)			
①老人クラブ連合会	: 全単位老人クラブが加入し ⁻	ている	る連合会に運営補助を行う	5 。		
への運営費補助						
2						
3						

3	事務事業の評価	(Check)

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会	情勢に照らして妥当か	、町が担う必要があるか。	。当該事務
事業を実	実施しない場合の支障	章、既存事務事業との	機能重複や見直しによる対	応可能性)

事業	を実施しない場合の	支障、閃	ff存事務事業との 標	幾能重複や	見直しによる対応可能性)
必要	□義務的なもの				補助するもので、地域の全 事業の公平性が保たれてい
2 . 2	□全部 □一部	る。			
必要/概ね必要/ 課題あり					
(2) 事務事業の有效	防性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)		
有効	設定した目標値 の達成状況		の補助により連合 持と福祉の向上が		が活発となり、高齢者の健 。
, L3 %)	■達成				
有効/概ね有効 /課題あり	□ほぼ達成 □下回る				
(3) 事務事業の効率	- を性 (コストに見合っ	た効果な	バ得られたか、計瓦	画上のコス	、トを下げる工夫をしたか)
	判断の理由	組織の	計画に沿った事業	美が実施さ	れており、概ね効率的であ
概ね効率的	□事業費抑制	ると考	える。		
	□人員抑制				
	□時間短縮・作業				
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減				
的/味趣のり	■その他				
l l	_ ビおり事業を進めるこ				5等に改善が必要 - 休・廃止の検討が必要 -
自己評	価 (一次評価)		評価会議評価(二	二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		A		
	いきいきと暮らして 、計画どおり事業を				
今後の展開方向	(Action))			
継続	/現状維持		継続/現場	犬維持	
	今後も続くことから	、当分	補助金に代わる いか検討するこ	支援がな	
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	.は 統合	〇終了 〇	休止 (D廃止
5 その他特記事	酒				

 * 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 			

<u>整</u>理番号 5-23

1 事務事業の表示

※ ■:該当

	1111 T AV						<u> </u>
事務	事業名	高齢者事業団	司訪問開	拓員設置費補	助事業		
		担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係			
評	価 者	## E ##	職名	保健福祉課長	/r dt =×	職名	係長
		課長等	氏名	葛 西 隆	───── 作成者 ────	氏名	宇野敏志
事業	の概要	雄武町高齢者	事業団の	育成発展を図る	ため、訪問開拓	員の人	件費の一部を補助す
		第5期総合計員	画	養載事業	□非登載事	業	
		政策目	票 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
車業 4	の位置付け	基本政策	策 7	高齢者支援の	充実		
●未り	の位しいい	単位施	策 3	社会参加の促	進		
		事務事業の種類	類 ■自	治事務	□法定受託	事務	
		その他計画・	艮拠等	高齢者保健福	祉計画		
		年	度平	[成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	コスト	総事業	費	900千円	6 0 0	千円	600千円
()	実 (積)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		300千円	300	千円	300千円

【誰、何が (対象)】	雄武町高齢者事業団		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	ҟ状況を最も∮ 	端的に表す 		
【抱える課題やニ 一ズは】	高齢者の能力と経験を生か した就業機会の確保		訪問開拓員の活動				
	C 1 C 30 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C 1 C	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値		
【どのような状態		標	① 訪問開拓員の活動	目標年度	19年度		
になることを目指	高齢者の生きがい就労の増	_		目標値	1名		
すのか(意図)】	進	目		実績値	1名		
9 07/17 (忠凶/1		標		達 成 度	100%		
【その結果、どの			2	目標年度	年度		
ような成果を実現	高齢者が健康でいきいきと			目標値			
したいか】	暮らせるようになる。			実 績 値			
※成果=目的				達成度	%		
内容(どのような手段で何を行ったか)							
①高齢者事業団への	高齢者事業団の育成発展を[図る1	ため、訪問開拓員人件費の	ワー部を補助	を行う。		
補助							
2							
3							

3 事務事業の評	価(Check)				4
					旦う必要があるか。当該事務 515日末115日 スポープではない
事業					で見直しによる対応可能性) での就業機会の増大が図られ
必要	□義務的なもの	る。	17年7月3月1年6		のが未成立の指穴が四づれ
20 2	│ □全部 □一部				
必要/概ね必要/ 課題あり					
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果 <i>が</i>	が得られ	たか)		
	設定した目標値			こり、高齢者1	自身の介護予防や生きがいづ
有効	の達成状況 ■達成	_ くりが	図られる。		
	■達成 □ほぼ達成				
│有効/概ね有効 /課題あり	□下回る				
(3) 事務事業の効率	M性(コストに見合っ	た効果だ	が得られたか	、計画上のコ	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由				かを行 う ために必要な補助で
効率的	□事業費抑制	あり、	コストの削洞	は難しいと	考える。
775 1 115	□人員抑制				
 効率的/概ね効率	□時間短縮・作業				
的/課題あり	軽減 ■その他				
	_ ビおり事業を進めるこ				う方等に改善が必要 - 3、休・廃止の検討が必要 -
自己評	価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価) 町長評価(三次評価)
	A			4	
	いきいきと暮らして ぎ、計画どおり事業を			_	
今後の展開方向	(Action))			
終	了		終	7	
	或化等による自立の				
	O 年度で道補助が最 もあわせて終了する				
w ′ v ∘					
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	;又は 拡充 又は 縮小 又	、は 統合	〇終了	〇休止	〇廃止

5 その他特記事項

<u>整</u>理番号 5-24

1 事務事業の表示

※ ■:該当

<u> </u>						<u> </u>
事務事業名	除雪サービス	ス事業				
	担当課・係名	保健福	业課社会福祉係	:		
評 価 者	## E ##	職名	保健福祉課長	/h dt +k	職名	主査
	課長等	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲
事業の概要			等、冬期間の除 サービスを実施		世帯に	対し、緊急避難路の
	第5期総合計員	画	養載事業	□非登載事	業	
	政策目	票 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	▪福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	策 7	高齢者支援の	充実		
事業の位置的の 	単位施	策 2	生活支援の充	実		
	事務事業の種類	類 ■自	目治事務	□法定受託	事務	
	その他計画・	艮拠等				
	年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業	費	235千円	2 2 4	千円	500千円
(実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		235千円	2 2 4	千円	500千円

【誰、何が (対象)】	高齢者等		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	∜状況を最も∮ 	端的に表す 	
【抱える課題やニ 一ズは】	高齢化による対象者の増加		緊急避難路の確保			
		指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値	
【どの上うた壮能	 住み慣れた地域で安心して	標	① 実績戸数	目標年度	19年度	
	暮らせるように緊急避難路			目標値	53戸	
すのか(意図)】	を確保する。	目		実績値	53戸	
7 07/3 (池四/1		標		達成度	100%	
【その結果、どの			2	目標年度	年度	
ような成果を実現				目標値		
したいか】	路線が確保される。			実 績 値		
※成果=目的				達成度	%	
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)			
①委託契約締結	雄武町社会福祉協議会に対	U, ∄	事業委託を行った。			
2						
3						

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要があるか	、。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障。	既存事務事業との機	能重複や見直しによる。	対応可能性)

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)	<u> </u>	□義務的なもの	ひとり暮らしの高齢者等、冬期間の除雪労力のない町民の緊
変要/概ね必要/課題あり (2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか) (3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか) 「課題あり」 □はほ達成 □はままを □なった。 (3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか) 「中国 □事業費抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人員抑制 □人の地 軽減 ■その他 □事業を進めることが適当 □ ままの統合、休・廃止の検討が必要 □ との他 □ 評価 (一次評価) □ 日 に、事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 □ :事業の減め方等に改善が必要 □ 日 評価 (一次評価) □ 日 評価 (一次評価) □ 日 評価 (一次評価) □ 日 評価 (一次評価) □ 日 計画とおり事業を進めることが適当 □ 日 に次評価) □ 日 計画とおり事業を進めることが適当と判断する。これを可が介入して現せた機構することは、町の生活 及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。 「人名ction) □ (Action) □ (必要	□全部 □一部	
探題あり	必要/概わ必要/		
有 効	課題あり		
有 効 の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る (3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか) 判断の理由	(2) 事務事業の有效	妫性 (期待する効果 <i>カ</i>	が得られたか)
●達成			
(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか) 判断の理由	有効		する町民の生活に支障を来さなかった。
下回る		. —	
判断の理由			
つま業費抑制	(3) 事務事業の効率	 性 (コストに見合っ	た効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)
スティー		判断の理由	除雪サービスの額は、労力時間により決定するが、民生委員
□人員抑制 □時間短縮・作業 軽減 ■その他 4 総合評価【A~D】 「A:計画どおり事業を進めることが適当 「B:事業の進め方等に改善が必要 「C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要 自己評価(一次評価) 「降電労力のない、ひとり暮らしの高齢者等にとって、 素急避難路の確保は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 「Action) 「経統」現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 の機続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 の終了 の体止 の廃止	効率的		
サスタック	X)++nj		ているため、コスト削減の余地はない。
 A 総合評価【A ~ D】 A: 計画どおり事業を進めることが適当		□時間短縮・作業	
4 総合評価【A~D】 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方等に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要 自 己 評 価 (一次評価) 評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価) 除電労力のない、ひとり暮らしの高齢者等にとって、緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 (Action) 継続/現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 (軽減	
A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方等に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要 自 己 評 価 (一次評価) 評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価) 除電労力のない、ひとり暮らしの高齢者等にとって、緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これを町が介入して現状を維持することは、町民の生活及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 (Action) 継続、現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 ○廃止	可/味趣のり	■その他	
除雪労力のない、ひとり暮らしの高齢者等にとって、 緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これ を町が介入して現状を維持することは、町民の生活 及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を 進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 (Action) 継続/現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で 安心して暮らしていくために、町の支援は必要 である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合	A:計画	_ ビおり事業を進めるこ	
緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これ を町が介入して現状を維持することは、町民の生活 及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を 進めることが適当と判断する。			
緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これ を町が介入して現状を維持することは、町民の生活 及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を 進めることが適当と判断する。		Δ	
緊急避難路の確保は必要不可欠なものである。これ を町が介入して現状を維持することは、町民の生活 及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を 進めることが適当と判断する。	トリング として かんし ない	り暮らしの喜齢者等に	トって
及び福祉の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 (Action) 総続/現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			
進めることが適当と判断する。 今後の展開方向 (Action) 継続/現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で 安心して暮らしていくために、町の支援は必要 である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。			
今後の展開方向 (Action) 継続/現状維持 ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止			J 事業を
ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇体止 〇廃止			
安心して暮らしていくために、町の支援は必要である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇体止 〇廃止	継続。	/現状維持	
である。最低限の生活路線の確保という観点からも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇体止 〇廃止			
らも、当分は現状維持が適当である。 *展開方向の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止			
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			既从が
〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			
〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			
〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			
〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止			
		マルサ本マル袋小豆	/什么会 〇枚子 〇件小 〇麼小
5 その州株司東西	○飛机⁄ 况认辩为	「人は加工人は陥小人	
りての他付記事項	5 その他特記事	項	

<u>整</u>理番号 5-25

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事務事業名	老人医療費助成事業						
	担当課·係名	名 保健福祉課社会福祉係					
評価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主事	
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TFIX日	氏名	川口敦史	
事業の概要	老人の健康の保持及び福祉の増進を図るため、医療費の助成を行う						
	第5期総合計画	□登	養載事業	■非登載事	業		
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	:の充実~	
事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の	充実			
事業の位置的け	単 位 施 策	2	生活支援の充	実			
	事務事業の種類	■É	1治事務	□法定受託	事務		
	その他計画・根	拠等					
	年 度	平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
事業コスト	総事業費		683千円	6 1 6	千円	160 千円	
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		683千円	3 1 0	千円	80 千円	

【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	な状況を最も端的に表す		
【抱える課題やニ ーズは】	生活の負担となる医療費の 軽減	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	日常生活の一助	標/目標	1	目標年度 年度 年度 日標 値		
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	保健福祉の向上		2	日標年度 年度 目 標 値 実 績 値 達 成 度 %		
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)			
① 申請、受給者証の発 行 ② 医療費の支出	対象者の申請に対し内容を審査し受給者証を発行した。 それを基に医療機関にて対象者を判断し医払う医療費を軽減する。 軽減した医療費の請求書を医療機関が発行し国保連合会を経由し雄武町へ到達、 その請求書に基づき、公費負担分の医療費を支出した(毎月)					
③ 補助金請求、実績報 告	北海道に対し実績報告等を行	行い、	補助金を請求した。			

3 事務事業の評価(Check	3	事務事業の評価	(Check
-----------------	---	---------	--------

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社	会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務
事業を実施しない場合の	支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)
- + 74 + 4 - 4	北海道で行っている義務的事業であり 老人福祉の向上の

	を美施しない場合の	文牌、以	[仔事務事果	との機能里複へ	P見直しによる対応可能性)
必要	■義務的なもの			いる義務的事業 域は必要である	であり、老人福祉の向上の。
少女	□全部 ■一部				
必要/概ね必要/ 課題あり					
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果が	が得られ	たか)		
	設定した目標値				り、老人福祉の向上が図ら
有効	の達成状況	れ、生	活の一助とな	なったと判断さ	れる。
	│ <mark>■</mark> 達成 │□ほぼ達成				
有効/概ね有効 /課題あり	□下回る				
	-	た効果だ	が得られたか	、計画上のコス	 、トを下げる工夫をしたか)
	判断の理由	特に経	費が無いたぬ	り、コスト削減	の余地はないと考える。
効率的	■事業費抑制				
W)—HJ	□人員抑制				
	□時間短縮∙作業				
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減				
ロック 味度のう	□その他				
4 総合評価【A	~D]				
l l	- ビおり事業を進めるこ				5等に改善が必要 -
		本の見直			休・廃止の検討が必要 –
自己評			評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
	より生活の一助にな				
刊断されるか、後期 め、平成19年度で	高齢者医療制度に統 ⁵廃止	音のだ			
今後の展開方	(Action)			
廃 ※	止 度に統合のため、平	計10			
を期向即有医療制 ・ ・ 年度で廃止	皮にボロのため、十	70人 1 9			
*展開方向の区分					
〇継続/現状維持	 又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	O休止 (○廃止

5 その他特記事項

<u>整</u>理番号 5-26

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	在宅福祉推進事業補助事業							
	担当課・係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係						
評 価 者	細巨生	職名	保健福祉課長	<i>佐</i> + →	職名	社会福祉係長		
	課長等	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	宇野敏志		
事業の概要	本式町社会福祉協議会が実施するひとり暮らしの高齢者等を対象とした生きがい交流事業、ふれあい訪問事業などの在宅福祉事業の充実を図るため、その経費の一部を補助する。							
	第5期総合計画 ■登載事業 □非登載事業							
	政策目标	票 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~		
┃ 事業の位置付け	基本政策	衰 7	高齢者支援の	充実				
事業の位置的い	単位施労	〔	生活支援の充	実				
	事務事業の種類	類 ■自	目治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・村	艮拠等	高齢者保健福	祉計画				
	年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業	費	350千円	250	千円	250千円		
(実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		350千円	2 5 0	千円	250千円		

【誰、何が (対象)】	在宅高齢者等		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ 一ズは】	支援の強化	指	円滑な事業の実施 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	高齢者等を対象とした各種 事業を行う。	標/目標	① 円滑な事業の実施	目標年度 19年度 目標値 2回 実績値 2回 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	高齢者福祉の増進が図られ る。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①雄武町社会福祉協議会への事業費の報助 ②		対象の	とした在宅福祉事業の経費	貴の一部を補助する。
3				

3 事務事業の評	価(Check)				_
					う必要があるか。当該事務 ・見直しによる対応可能性)
	□義務的なもの	高齢者)充実を図るため必要であ
必要	口全部 口一部	る 。			
 必要/概ね必要/ 課題あり					
	物性 (期待する効果だ	が得られ	たか)		
	設定した目標値	各種在	宅福祉事業	美が円滑に実施さ	れた。
有効	の達成状況 ■達成				
 有効/概ね有効	□ほぼ達成				
/課題あり	□下回る	1	\$4B > 1 ₀ 4	<i>ι</i> , -1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	+ T
(3) 事務事果の知				•	.トを下げる工夫をしたか) 地はないと考えます。
) 効果的	判断の理由 □事業費抑制	事未の	ル 夫 준점성) /こなり、 円寸//或ひ/示。	ではない・と 万 ん み り 。
刈未的	□人員抑制				
	□時間短縮・作業				
的/課題あり	軽減 ■その他				
4 総合評価【A	~D1				
A:計画	- ごおり事業を進めるこ			B:事業の進め方	
		本の見直			休・廃止の検討が必要 –
自己評	価(一次評価)		評価宏議	評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
在字高齢者の社会	参加や地域での見守	リ体制			
の強化など高齢者福	証の増進を図るため	、計画			
とおり事業を進める	ことが適当と判断す	්			
今後の展開方	(Action))		<u> </u>	
継続	/現状維持				
	支援は、継続して行 当分は現状維持が適				
る。	コンコのシに八州生」すん、地	⊐ ⊂ 0 0			
* 展開方向の区分					
	又は 拡充 又は 縮小 又	は 統合	〇終了	〇休止 ()廃止
5 その他特記事	項				

<u>整</u>理番号 5-27

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	高齢者入浴優待事業							
	担当課·係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係						
評価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査		
	林及寺	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	武藤知憲		
事業の概要	概要 高齢者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者に健康の増進と生きがいの 充実を図ることを目的として実施している							
	第5期総合計画 ■登載事業 □非登載事業							
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	▪福祉	の充実~		
事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の	充実				
学术の位置的の	単 位 施 策	2	生活支援の充	実				
	事務事業の種類	■ É	1治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・根	処等	雄武町高齢者	等入浴優待事業	実施要	綱		
	年 度	平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	2	,072千円	2, 175	千円	2, 100千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		,072千円	2, 175	千円	2, 100千円		

【誰、何が(対象)】	高齢者等		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	高齢者等に対する支援	指	入浴優待券交付枚数 指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	高齢者等における健康の増 進と生きがいの充実を図る。	標/目標	① 実績人数	目標年度 19年度 目標値 実績値 713人 達成度 %
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	老人福祉、障がい者福祉の 向上を図る		2	日標年度 年度 日 標 値 実 績 値 達 成 度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
① 入浴優待券の 交付	対象者からの申請に基づき	審査 व	を行い、ホテル入浴優待券	券を交付
2				
3				

2	事務事業の評価	
.5	事務事表以評100	Coneck

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

	で天心しない物白の	义悍、以	化计争协争未	この版形主後い	兄担しによる対心可能性)		
必要	□義務的なもの □全部 □一部	きがい	の充実を図	るうえで、楽し	泉入浴は、健康の増進と生みの一つであり、町がそれ		
					á該事業を実施しない場合		
必要/概ね必要/ 課題あり	-	14. ±	さかいの元:	実が損なわれる	恐れかめる。		
(2) 事務事業の有効	物性 (期待する効果/	が得られ	たか)				
	設定した目標値	当該事	業を実施し	たことにより、i	高齢者等の健康増進と生き		
有効	の達成状況 ■達成	がいの	充実が図ら	れた。			
 有効/概ね有効	□ほぼ達成						
/課題あり	□下回る						
(3) 事務事業の効率	枢性 (コストに見合っ				トを下げる工夫をしたか)		
	判断の理由				申請書を作成していたた		
効率的	□事業費抑制				る時間が短縮でき、申請者		
773 113	□人員抑制	の待つ時間も短縮できた。コストについては、必要最低 実施しているため、削減の余地はない。					
	- ■時間短縮・作業	大心し	C 0 1 2 0 7 2 0 7 .	、円が吹り赤地は	'& ∪ ' °		
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減						
町/ 味趣のり	□その他						
A:計画。	4 総合評価【A~D】 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方等に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要						
自己評	巫 価(一次評価)		評価会議評	平価(二次評価)	町長評価(三次評価)		
	A		4	A			
	こしている町民にとっ いの充実の観点から						
	る。これを町が介入して						
	民の生活及び福祉の向」						
	り事業を進めることが過	適当と判					
断する。							
今後の展開方	向 (Action)	Į	<u></u>			
継続	/現状維持		継続/	現状維持			
	がいの充実を図るた						
	リ、高齢者福祉及び障						
	₿続して行う必要があ キオキホジὰΨ∽キ▽	ること					
から、当分は現状維	tffルツ辿当じめる。						
* 展開方向の区分							
	持又は 拡充 又は 縮小 又	スは 統合	〇終了	O休止()廃止		
5 その他特記事							

<u>整</u>理番号 5-28

1 事務事業の表示

※ 📑:該当

事務事業名	居宅老人交通費助成事業						
	担当課·係名	保健福祉課社会福祉係					
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査	
	林及寺	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	武藤知憲	
事業の概要	居宅において生活を営む老人の通院等に要する交通費の助成を行っている。						
	第5期総合計画	■差	養載事業	□非登載事	業		
	政 策 目 標	2	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜				
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の充実				
事業の位置的け	単 位 施 策	2	2 生活支援の充実				
	事務事業の種類	■ É	自治事務	□法定受託	事務		
	その他計画・根	その他計画・根拠等 居宅老人交通費助成要綱					
	年 度	<u> </u>	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
事業コスト	総事業費	4	,658千円	4, 592	千円	5,600千円	
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		,658千円	4, 592	千円	5,600千円	

【誰、何が (対象)】	高齢者		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	t状況を聞	きも 5	端的に表す 	
┃ 【抱える課題やニ ーズは】	高齢者で車を持っていない 者に対する支援		交通費の助成				
		指	指標(指標計算式/解説)	目標	直及	び実績値	
【どのような状態		標	① 交付実績	目標年		19年度	
になることを目指	病院受診時等に要する費用			目標.			
すのか(意図)】	が緩和される。	目		実績		484名	
7 07/3 (池)四/1		標		達成	度	%	
【その結果、どの			2	目標年		年度	
ような成果を実現	高齢者に対する福祉の向上				値		
したいか】	が図られる。			実 績	値		
※成果=目的	i 			達成	度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)							
①助成券の交付	対象者からの申請に基づきる	事査 る	を行い、交通費助成券を多	を付してい	ハる	0	
<u> </u>							
2							
3							

3	事務事業	の証価	(Check)
J	争伪争未	ひとませり凹	(CHECK

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

尹未	を美施しない場合の.	文陧、均	[行事務事表	との饿肥里骸	や見但しによる対応可能!	王)
必要	□義務的なもの	る交通	費の助成はク	てくことので	手段として、通院などに要 きないものであり、町がそ	れ
	□全部 □一部				当該事業を実施しない場合	À ,
必要/概ね必要/ 課題あり		健康瑁	進を損なり	ゔそれがある。		
(2) 事務事業の有効	防性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)			
	設定した目標値	当該事	業を実施した	たことにより	、通院等に利用している町	「民
有効	の達成状況 ■達成	の交通	[費負担を軽》	載することが	できた。	
	■達成 □ほぼ達成					
┃ 有効/概ね有効 ┃ /課題あり	□下回る					
	1	た効果だ	が得られたか	、計画上のコ	ストを下げる工夫をしたが	か)
	判断の理由	前年度	の申請者に	ついては、予	め申請書を作成していた	た
効率的	□事業費抑制	め、申	請者による申	請書の記載す	する時間が短縮でき、申請	者
W)+HJ	□人員抑制				トについては、必要最低限	で
	□時間短縮・作業	美施し	(いるため、	削減の余地に	まない。	
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減					
日 17 日本 松本 ひりつ	■その他					
	_ ビおり事業を進めるこ				ッ方等に改善が必要 ∵、休・廃止の検討が必要	
	価 (一次評価)			価(二次評価)		
	Δ			Δ		
 自家用車を持たなし	<u></u>					
	る。町が介入して現場					
	E活及び福祉の向上を図 巻を進めることが適当と					
る。	そと述めることが、過当と	- 19191 9				
今後の展開方[(Action))				
◇ 业 ◇ 士	/珥华维柱		《业《士 /	1日小桃井		
	/現状維持 めにも町の支援は必	亜でお	和全市汇	現状維持		
]上のため、継続して					
	当分は現状維持が適	当であ				
る 。						
*展開方向の区分		ه <u>ل</u> م ا ر	C 44 -	0.41	<u> </u>	
□ ○継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止	
5 その他特記事	項					

<u>整</u>理番号 5-29

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· ナ 切テネツ						<u> </u>		
事務事業名	敬老祝金支給事	敬老祝金支給事業						
評 価 者	課長等	哉名	保健福祉課長	ルボネ	職名	主査		
	林文寺	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲		
事業の概要		きもに	多年の労をねき	らい、町民の敬		「る高齢者に対し、長 ほの高揚を図ることを		
	第5期総合計画	■登	養載事業	□非登載事	業			
	政 策 目 標	票 2 ぬくもり・雄武~保健・医療・福祉の充実~						
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	7 高齢者支援の充実						
事業の位置的け	単位施策	3 社会参加の促進						
	事務事業の種類	事務事業の種類 ■自治事務 □法定受託事務						
	その他計画・根拠	根拠等 雄武町敬老祝金支給条例、雄武町敬老			敬老祝金	金支給条例施行規則		
	年 度	<u> </u>	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	1	,790千円	1, 780	千円	2,260千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)	1	,790千円	1, 780	千円	2, 260千円		

【誰、何が (対象)】	高齢者		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す				
【抱える課題やニ ーズは】	敬老思想の希薄化	指	祝金支給の継続 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値				
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	多年の労を労い、町民の敬老 思想の高揚を図る	標/目標	① 支給実績	目標年度 19年度 目標値 実績値 80名 達成度 %				
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	高齢者自らが健康増進に努 める意欲の向上が図られる		2	日標年度 年度 日 標 値 実 績 値 達 成 度 %				
	内 容(どのような手段で何を行ったか)							
① 敬老祝金の支給	高齢者台帳を作成し、敬老の する者に敬老祝金を支給	の日を	を基準日として、喜寿、オ	(寿、白寿、上寿に該当				
2								
3								

3	事務事業の評価	(Check)
J	争物争未以計画	CHECK

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要がある	るか。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障、	既存事務事業との機	能重複や見直しによ	る対応可能性)

必要	□義務的なもの	敬老の節目を迎える高齢者に対し、長寿を祝福することは、 多年の労に対する労いや敬老思想の高揚を図るうえでも欠			
处安	□全部 □一部		のできないものであり、それ 当該事業を実施しない場合。		
必要/概ね必要/ 課題あり			める意欲が低下するおそれ		
(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)					
有効	設定した目標値 の達成状況		高齢者自らが健康増進に努める意欲の向上及び各地区敬老 会の開催など町民の敬老思想の高揚が図られた。		
	■達成				
有効/概ね有効 /課題あり	│□ほぼ達成 □下回る				
(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)					
	判断の理由 敬老祝金は雄武町敬老祝金支給条例及び雄武町敬老祝金支				
効率的	□事業費抑制 □人員抑制	給条例施行規則に基づいて、適切な支給を行っており、コスト 制減の余地はない。			
	□円間短縮・作業				
効率的/概ね効率 的/課題あり	\$ (I				
ロン 味度のう	■その他				
4 総合評価【A~D】A:計画どおり事業を進めることが適当B:事業の進め方等に改善が必要C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要D:事業の統合、休・廃止の検討が必要					
自 己 評 価 (一次評価) 評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価)					
A					
長寿を祝福することは、多年の労に対する労い					
や敬老思想の高揚を図ることは、高齢者支援充 実の観点からも必要不可欠であり、高齢者福祉					
の向上を図るうえでも、計画どおり事業を進め					
ることが適当と判断する。					
今後の展開方向 (Action)					
継続/現状維持					
健康増進及び敬老思想の高揚を図るために事					
業の継続は必要であり、当分は条例に基づき、 現状維持が適当である。					
5557427977 22 5 5 5 5 5					
*展開方向の区分					
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止					
5 その他特記事項					

<u>整理番号 5-30</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

	-						
事務事	業 名	敬老会賄費與	力成事業				
		担当課・係名	保健福	祉課社会福祉係			
評価	者	細巨ケ	職名	保健福祉課長	<i>L</i> r d *	職名	主査
		課長等	氏名	葛 西 隆	──── 作成者	氏名	武藤知憲
事業の	版 要 敬老の日を中心として、多年の労を労うことを目的として、各自治会において開催している敬老会の開催に係る費用負担の一部を賄費として支給している。						
		第5期総合計画	画	養載事業	□非登載事	業	
		政策目	票 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	• 福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置	₽ <i>/</i> +/+	基本政策	策 7	高齢者支援の	充実		
す 未の位置 	119 I <i>)</i>	単位施	策 3	社会参加の促	進		
		事務事業の種類	類 ■自	1治事務	□法定受託	事務	
		その他計画・	艮拠等				
		年	度平	· 成 1 8 年度	平成19年	度 :	平成20年度(予定)
事業コ		総事業	費 1	,374千円	1, 428	千円	1, 540千円
(実)	ŧ)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		,374千円	1, 428	千円	1,540千円

【誰、何が(対象)】	満75歳以上の高齢者		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	_	指	敬老会賄費の支給 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】		標/目標	① 助成対象人数	目標年度 19年度 目標値 714人 実績値 714人 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	郷土愛に溢れた町民育成		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①敬老賄費の支給	満75歳以上の高齢者の人員 ける人数を確定させたうえ			8をとり、各自治会にお
2				
3				

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生 (町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

事業	を実施しない場合の	支障、即	托 存事務事業	との機能重複や	見直しによる対応可能性)
. No esta	□義務的なもの				、敬老会を開催し長寿を祝 労いや敬老思想の高揚を図
必要	口全部 口一部	るうえ	でも欠くこ	とのできないも	のであり、それを維持する
必要/概ね必要/ 課題あり				。当該事業を実 会に影響を及ぼ	施しない場合、各地区におす。
(2) 事務事業の有効	効性 (期待する効果か	(得られ	たか)		
	設定した目標値 の達成状況				により、高齢者自らが健康
有効	●達成			の冋上か図られ 高揚が図られた	、敬老会の開催などにより
 有効/概ね有効	□ほぼ達成				
/課題あり	□下回る				
(3) 事務事業の効率	1				トを下げる工夫をしたか)
4.1 -4- 22	判断の理由		を開催する		限度の助成であり、コスト
効率的	□事業費抑制 □人員抑制	111//2007	7,7210.00	0	
	□時間短縮・作業				
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減				
HIV DAKESON	■その他				
4 総合評価【A	_				
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	どおり事業を進めるこ 現模、内容、実施主体				う等に改善が必要 - 休・廃止の検討が必要 -
自己評	· 価(一次評価)		評価会議語	平価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A			A	
	曽進に努める意欲の				
	こより町民の敬老思? i費の支給は必要不可				
]上を図るうえでも、 [とが適当と判断する				
		0			
今後の展開方[(Action))	,	<u> </u>	↓
継続	/現状維持		継続/	須状維持	
	齢者自らの健康増進 老思想の高揚を図る				
措置として町の支援	は必要である。敬老	の節目			
	は域住民にも、敬老会 がおり、最低限の助成				
すべきである。	. 00 7 C AX PENDIX V7 19/11/X	I O HE IA			
* 田田士ウのロハ					
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	持又は 拡充 又は 縮小 又	は 統合	〇終了	〇休止 ()廃止
5 その他特記事					
	·· · ×				

<u>整</u>理番号 5-31

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· -						
事務事業名	社会福祉施設	備品購	入事業			
	担当課·係名	保健福祉	祉課社会福祉係			
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	ルボ 字	職名	社会福祉係長
	林 女 守	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	宇野敏志
事業の概要 福祉センター及び地域包括支援センターの電話設備について、耐用年数の経過による老朽化及び停電時は使用不可のため、設備の更新を行う。						
	第5期総合計画	第5期総合計画 □登載事業 ■非登載事業				
	政 策 目 標	票 2 うるおい・雄武~生活環境・生活基盤の充実~				盤の充実~
┃ ┃ 事業の位置付け	基本政策	策 19 消防・救急・防災体制の強化				
事業の位直的け 	単 位 施 策	1	災害予防対策	• 危機管理対策	の強化	
	事務事業の種類	■ É	目治事務	□法定受託	事務	
	その他計画・根	拠等				
	年 度	平	" 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業費	3	千円	1, 079	千円	千円
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		千円	1, 079	千円	千円

【誰、何が (対象)】	福祉センター電話設備		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	対況を最も	端的に表す				
┃ 【抱える課題やニ 一ズは】	停電時における使用不可状 態		電話設備の更新						
	765	指	指標 (指標計算式/解説)	目標値及	び実績値				
【どのような状態		標	① 電話設備の更新	目標年度	19年度				
_	停電時における使用			目標値	1式				
すのか (意図)】	厚电時に8317の区角	目		実績値	1式				
900万、(本四/1		標		達成度	100%				
【その結果、どの			2	目標年度	年度				
ような成果を実現	安定的な運用			目標値					
したいか】	女足的な理用			実績値					
※成果=目的		 		達成度	%				
	内 容(どのような手段で何を行ったか)								
①電話設備の更新	停電時にも使用可能な電話	没備の	の更新を図った。						
2									
3									

2 車変車業の部	(Chaok)			₩
3 事務事業の評(1) 事務事業の必要		- 스.桂.執/	に照らして妥当か、町が担 ^っ	こび亜バセスか 火汰車数
	· ·		〜照らして安ヨか、町か担 現存事務事業との機能重複や	
	□義務的なもの	福祉セ	ンターの電話設備は、災害等	等の停電時において使用不
必要	□全部 □一部		ることから、安定的な運用	
		用可能	な電話設備に更新する必要	がある。
必要/概ね必要/ 課題あり				
	<u>│</u> 奶性 (期待する効果かん	が得られ	<i>t-t</i> ()	
(と/ デカテベジロル	設定した目標値		たねり は備の更新により、停電時にる	
有効	の達成状況	能とな		のいても文化的な年刊を引
,H WI	■達成			
 有効/概ね有効	□ほぼ達成			
/課題あり	□下回る			
(3) 事務事業の効率	፟ 怪性 (コストに見合っ		が得られたか、計画上のコス	
	判断の理由	見積書	を徴し、適正価格により購	入した。
効果的	■事業費抑制			
***************************************	□人員抑制			
	□時間短縮・作業			
│効率的/概ね効率│ │的/課題あり	軽減			
HJ/ WINCES	□その他			
4 総合評価【A	~D]			
A:計画と	- ビおり事業を進めるこ		当 B:事業の進め方	
		≛の見直	しが必要 D:事業の統合、	
目 己 評	価(一次評価)		評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A			
	的な運用を図るため			
どおり事業を進める	ことが適当と判断す	· & 。		
	(A stiers)	<u> </u>		
今後の展開方向	(Action))		
· ·			<u> </u>	*
終				
電話設備を更新し、	事業が終了した。			

5 その他特記事項		

〇終了

〇休止

〇廃止

*展開方向の区分 **〇継続/現状維持**又は**拡充**又は**縮小**又は**統合**

<u>整</u>理番号 5-32

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	自立支援医療	便生	医療)給付事	業		
	担当課・係名 保	健福	祉課社会福祉係	:		
評 価 者	課長等	哉名	保健福祉課長	作成者	職名	主事補
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TF风伯	氏名	川口敦史
事業の概要	損治癒、変形治癒 透析治療が必要な	競等の 3方等 复させ	不完全治癒)し で、身体障害者 [·] ることを目的で	た方や、腎臓機 手帳を所持する	機能の低 方に対	を終え、既に治癒(欠 に下により、継続的なけし、日常生活能力又 ハビリテーション医
	第5期総合計画	三 登	養載事業	□非登載事	<u>業</u>	
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	9	障がい者支援	の充実		
事業の位置的け	単位施策	1	自立支援対策	の推進		
	事務事業の種類	■ É	治事務	□法定受託	事務	
	その他計画・根拠	L等	障害者自立	支援法		
	年 度	म	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業費	1	,044千円	10,740	千円	14,000千円
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		- 188千円	1, 775	千円	3,500千円

	13 PITT (Fian Do)						
【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す		
【抱える課題やニ ーズは】	生活を逼迫する、障害者の透 析等の多大な医療費	指	需要に対する供給 指標(指標計算式/解説)	日煙値及	び実績値		
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	日常生活能力の回復、自立	標/目標	① 総事業費の内町が 負担した額:雄武町が 対象者より単独で支出 を必要とされた額	目標年度 目標値 実績値 産成度			
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	福祉医療の充実		2	目標年度 目標値 譲 成度	年度		
内 容(どのような手段で何を行ったか)							
① 申請を受付、内容の審査及び心身障害者総合相談所に判定依頼した。 申請書の受理、進 その判定結果を受け、給付券の発行をした。 達 補助金の申請、実績報告をし、補助金を受領した。							
3							

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生 (町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

事未	を美旭しない場合の	又陧、以	[仟争符争未	この饿肥里後へ	2見但しによる刈心可能性
必要	■義務的なもの ■全部 □一部	-	に関わる治療 断される。	寮等に要する医	療費の助成であるため、必
必要/概ね必要/ 課題あり					
	効性 (期待する効果が	が得られ	たか)		
	設定した目標値	医療	費の軽減が	図られることに	より、対象者が治療を受り
有 効	の達成状況	7			ため、目標は達成されてい
	■達成	るもの	と判断される	5 .	
有効/概ね有効	□ほぼ達成				
/課題あり	□下回る	+- 幼田 4	ジョこもまか	社画しのコー	 ストを下げる工夫をしたか
(3) 事務争系の効率	<u> </u>				
	判断の理由	符に発	生りる栓貨な	い無いため、コ	スト削減の余地はない
効率的	□事業費抑制				
	┃□人員抑制 □時間短縮・作業				
効率的/概ね効率					
的/課題あり	■その他				
l l	_ ビおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 休・廃止の検討が必要
自己評	価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
なく事業を行うこと る治療を必要とする	に定める事業であり により、本事業の対 る町民の生命が維持 業を取り進めること	象とす される			
今後の展開方	(Action))	•		
継	続/拡充				
生命に関わる治療が、自立した生活を り、近年、高齢化等	療や手術を必要とす 送るために必要な事 により同様の障害者 気充が適当と判断され	業であ が増加			
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	・ ・ ・又は 拡充 又は 縮小 又		〇終了	〇休止	〇廃止
5 その他特記事	· <u>垻</u>				

<u>整</u>理番号 5-33

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事務事業名	重度心身障害者医療給付事業					
	担当課·係名 传	呆健福	业課社会福祉係			
評価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主事補
	林文寺 .	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	川口敦史
事業の概要	重度心身障害者の方の医療費の一部を給付することにより、疾病の早期発見と早期治療を促進し、保健の向上及び福祉の増進を図ることを目的として医療費の一部を給付している。					
	第5期総合計画	■登	養載事業	□非登載事	業	
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
事業の位置付け	基本政策	9	障がい者支援	の充実		
事業の位置的け	単位施策	1	自立支援対策	の推進		
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務				
	その他計画・根持	処等				
	年 度	平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業費	1 5	5,693千円	11, 928	千円	16,600千円
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		,855千円	5, 085	千円	8,300千円

【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す		
【抱える課題やニ ーズは】	多大な医療費による生活の 逼迫	指	需要に対する供給 指標(指標計算式/解説)	日煙値及	び実績値		
【どのような状態 になることを目指 すのか(意図)】	生活の一助、福祉医療の充実	標/目標	① 総事業費の内町が 負担した額・雄武町が 対象者より単独で支出 を必要とされた額		19 年度 8,300 千円 8,300 千円 100 %		
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	福祉医療の向上		2	目標年度 目標値 実 値 度 成 度	年度		
内 容(どのような手段で何を行ったか)							
① 申請、受給者証の発 行	申請、受給者証の発する医療費を軽減する。						
② 軽減した分の医療費の請求書を発行し国保連合会を経由し雄武町へ送付、その請 医療費の支出 求書に基づき、国保連合会が医療を一時負担して、後日、雄武町が国保連合会へ 支払った。							
③ 補助金請求、実績報 告	北海道に対し実績報告等を行	行い、	補助金を請求した。				

3	事務事業の評価	(Check)
---	---------	---------

(1) 事務事業の必要性	上(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要があるた	か。当該事務
事業を	実施しない場合の支障.	既存事務事業との機	能重複や見直しによる	対応可能性)

					∃う必要があるか。当該 や見直しによる対応可能	
	■義務的なもの	福祉	、医療の向-	Lのため必要。	と判断される。	
必要	■全部 □一部					
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果だ	が得られ	たか)			
左	設定した目標値 の達成状況				り、負担区分が明確とな 幾関においてスムーズな	
有効	■達成	の運営	が図られてし	いる。また、	受給者も全員利用しては	
 有効/概ね有効 /課題あり	□ほぼ達成 □下回る	医療費	の軽減が図り	られていると	判断される。	
	-	<u></u>	が得られたか	<u></u> 、計画上のコ		たか)
(-) 0.000 0.010 000 000 000 000 000 000 000	判断の理由			•	要なため、事務を効率的	
概ね効率的	□事業費抑制	施する	ための仕組み	みづくりに検討	討を要する。	
13010331 13	□人員抑制					
├ 効率的/概ね効率	│□時間短縮・作業 軽減					
的/課題あり	■その他					
	どおり事業を進めるこ				う方等に改善が必要 ∵、休・廃止の検討が必	- ·要 -
自己評	価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評	価)
	A			A		
	こ対する医療費の負 向上を図る <mark>う</mark> えでも					
	ことが適当と判断さ					
今後の展開方	(Action))				
継続	/現状維持		継続/	現状維持		
	業のひとつであり、					
	:医療給付であり、全 :業であるため、継続					
維持が適当である。						
・展開士中の区へ						
★展開方向の区分〇継続/現状維持	;又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止	
	P THE SECTION AND A P.					

5 その他特記事項

<u> </u>		

<u>整理番号 5-34</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	身体障害者補装	具費	支給事業				
	担当課·係名 保	健福	祉課社会福祉係				
評価 者	課長等	战名	保健福祉課長		職名	主事補	
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TFI 火 相	氏名	川口敦史	
事業の概要	は社会生活を営む 他の支援を行い、	こと もっ いわら	ができるよう、 て障がい者及び ず国民が相互!	必要な障がい福 障がい児の福祉	福祉サー 上の増進	自立した日常生活又・ビスに係る給付その を図るとともに、障 安心して暮らすこと	
	第5期総合計画	■ 	養載事業	□非登載事	業		
	政 策 目 標	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜					
事業の位置付け	基本政策	9	9 障がい者支援の充実				
事業の位置的に 	単 位 施 策	1	1 自立支援対策の推進				
	事務事業の種類	■ É	1治事務	□法定受託	事務		
	その他計画・根拠	等	障害者自立	支援法			
	年 度		- 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
事業コスト	総事業費	1	,814千円	2, 159	千円	1, 500千円	
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		665千円	7 0 9	千円	375千円	

【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す	
 【抱える課題やニ ーズは】	補装具によっては、耐用年数 が短期的な物があるため、購	11-	需要に対する供給			
	入費や修理費がかさむ。	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及		
【どのような状態		標	① 総事業費の内町が	目標年度		
になることを目指	障がい者の生活の一助、福祉		負担した額:雄武町が	目標値		
すのか(意図)】	医療の充実	目標	対象者より単独で支出	実績値		
7 47 76 (AEA EL) 1		િ示	を必要とされた額	達成度	100 %	
【その結果、どの			2	目標年度	年度	
ような成果を実現	生活の安定、保健福祉の向上			目標値		
したいか】	エルの文化、休促福祉の内工			実績値		
※成果=目的				達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
1	申請書及び見積書を徴し、明	りで	審査を行い、支給券を発行	うした。		
申請・判定・補助	補装具の支給を確認次第給付	すしが	.			
2						
3						

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要があるか	、。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障。	既存事務事業との機	能重複や見直しによる。	対応可能性)

	■義務的なもの			自己負担は少ないに越したこ
必要	■全部 □一部			効果を得られていると判断さ ものであり、身体障がい者の
 必要/概ね必要/		福祉向	上を図るため必要と判断	される。
課題あり				
(2) 事務事業の有效	防性 (期待する効果 <i>t</i>	が得られ	たか)	
	設定した目標値の達成状況			ており、十分に目的は達成さ
有効	■達成	れてい	るものと判断される。	
 有効/概ね有効	■ <i>Œ /</i>			
/課題あり	□下回る			
(3) 事務事業の効率	枢性 (コストに見合っ	た効果が	が得られたか、計画上のコ	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由			出の大半は扶助費であるた
効率的	□事業費抑制	め、コ	スト削減に努めることは	難しいと判断される。
773 T H 3	□人員抑制			
かずめ / 押もかず	□時間短縮・作業			
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減 ■ その他			
	I C OTIE			
4 総合評価【A	_			
• • • • • • • • • • • • • • • • • • •			当 B:事業の進め Lが必要 D:事業の統合)方等に改善が必要 3、休・廃止の検討が必要 →
	。 · 価(一次評価)	**************************************	評価会議評価(二次評価	
1 0 11			11 m 21 m ()(11 m	/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	理は障がい者が日常	仕任た		
	「欠なものであり、計			
り事業を進めること	:が適当と判断される	0 0		
A 40	(1, 1, 1)			
今後の展開方	(Action))		
Anh 4±	✓ TD .U.			
1001	/現状維持	444		
1111 - 11 11 11 11	:理は障がい者が日常 「欠なものであり、今			
	であると判断される			
*展開方向の区分				
■ 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	.は 統合	<u> 〇終了 〇休止</u>	〇廃止
5 その他特記事	項			

<u>整</u>理番号 5-35

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事:	務事	業名	心身障害者	丰金支給	事業					
			担当課·係名	担当課·係名 保健福祉課社会福祉係						
評	価	者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主事補		
			林区寺	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	川口敦史		
事	業の	概要	年金を支給して、その精神的うるおいと希望を与えて心身障がい者の福祉の向上を図る。							
			第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業			
			政 策 目 ፣	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実		
車場	▮のは	置付け	基本政策	策 9	障がい者支援	の充実				
 	その7 1社	回りい	単位施	策 1	自立支援対策	の推進				
			事務事業の種	類 ■	自治事務	□法定受託	事務			
			その他計画・	根拠等	雄武町心身	障害者年金条例				
			年	度 平	^Z 成 1 8 年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
		スト	総事業	費 1	,951千円	1, 962	千円	2, 100千円		
	実	績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		,951千円	1, 962	千円	2, 100千円		

【誰、何が (対象)】	重度心身障害者		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も 	端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	る課題や二、重度心身障害者に対する支援		前年度の支出基準に 状況	おける当該年	拝度の支出
V VIO.2	<i></i>	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態		標	① 当該年度の支出額	目標年度	19 年度
になることを目指	重度心身障害者の福祉の向		・前年度の基準で算出	目標値	1,962 千円
すのか(意図)】	上	目標	した当該年度の支出額	実績値	1,962千円
		惊		達成度	100 %
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現	重度心身障害者の福祉向上			目標値	
したいか】	が図られる。			実 績 値	
※成果=目的				達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
1	10月1日に重度障害者に関	章害さ	者年金を支給した。		
給付					
2					
3					

3	事務事業の評価	(Check)
---	---------	---------

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要がある	るか。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障、	既存事務事業との機	能重複や見直しによ	る対応可能性)

	□義務的なもの				まる中、未だ、障がい者福
必要	□全部 □一部				って、障がい者福祉向上を
		凶る75	め、必要とネ	ま える。	
必要/概ね必要/					
課題あり		*/B > 1			
(2) 事務事業の有効	効性 (期待する効果だ				
less to the state	設定した目標値	不沥	!が続く中、タ	上活の一助とし ●	て概ね有効である。
概ね有効	の達成状況 ■達成	_			
	■達成 □ほぼ達成				
┃有効/概ね有効 ┃/課題あり	□下回る				
		/ / *** 田 /	18/日こねょよ		- ナエばフェナナ ナム\
○○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1				、トを下げる工夫をしたか)
	判断の理由				ており、これ以上のコスト
効率的	■事業費抑制	の削減	は困難である	0.	
	□人員抑制				
	□時間短縮・作業				
■効率的/概ね効率	軽減				
的/課題あり	□その他				
△ 公△≕年 「▲	~. D.I				
4 総合評価【A	. ~ ロ』 どおり事業を進めるこ	トが適	业 R	・事業の進めす	等に改善が必要 一
					」寺に改善が必要 休・廃止の検討が必要 ―
自己評	· 価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Δ				
E 脚に かた 川口で	常生活又は社会生活	1一生117日			
	fi エルスは社会エル けし、精神的うるおい				
を与えた。	100 1H11111 0000	C 117 =			
今後の展開方	(Action)	`			
フタの成用力	(Action)	,	4		—
公 地 4士	/TB 北 4# +±			<u> </u>	•
11—100.	/現状維持				
	続く中、社会的制限を ∶を図るうため、障害				
	- を囚るうため、障害 5り、障がい者福祉の				
	の、事業の継続、現状				
必要と考える。					
*展開方向の区分					
□ 〇継続/現状維持	持又は 拡充 又は縮 小 又	は統合	〇終了	〇休止(D廃止
5 その他特記事	珥				
	<u>-X</u>				

<u>整</u>理番号 5-36

1 事務事業の表示

※ ■:該当

- 争切争未以	20.31					☆ ■ . 改当		
事務事業名	重度身体障害	書者ハイ	ヤー料金助成	戈事業				
	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係							
評 価 者	細巨生	職名	保健福祉課長	ルボネ	職名	主査		
	課長等	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲		
事業の概要	雄武町の区域内に住所を有する者で、身体障害者手帳(1級又は2級)又は療育手帳(A判定)の交付を受けた者等に対し、健康と福祉の向上を図ることを目的とし、ハイヤーを利用する場合の基本料金分を助成している。							
	第5期総合計画	画	養載事業	□非登載事	業			
	政策目标	票 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~		
事業の位置付け	基本政策	策 9	障がい者支援	の充実				
事業の位置的の 	単位施	策 1	自立支援対策	の推進				
	事務事業の種類	領 ■自	1治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・村	艮拠等						
	年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業	費	419千円	475	千円	600千円		
(実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		4 1 9 千円	4 7 5	千円	600千円		

【誰、何が (対象)】	重度身体障害者		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	重度身体障害者に対する支 援	指	助成券交付枚数 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	障がいを持つ者と持たない 者の共生	標/目標	① 交付人数	目標年度 19年度 目標値 32人 実績値 32人 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	障がいを持つ者への最低限 の交通路線が維持される。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
① 助成券の交付	ハイヤーの移動支援を必要な 基本料金分の助成券の交付	とする	る障がい者に対して、ハイ	イヤーを利用する場合の
2				
3				

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生 (町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

1.21				て 万臣 ひにめ もがかい 記正/
必要	□義務的なもの □全部 □一部	成券の	交付は欠くことのできない	がい者の移動手段として、助いものであり、障がいをもついてくりのためにも、事業を
必要/概ね必要/		維持す		亥事業を実施しない場合、障
課題あり				東国に 0日 と次は 9
(2) 事務事業の有象	か性 (期待する効果 <i>が</i>	い待られ	たか)	
有効	設定した目標値の達成状況		「業を実施したことにより、 障がい者の交通費負担の!	、ハイヤーの利用を必要とし 軽減が図られた。
	■達成 □ほぼ達成			
有効/概ね有効 /課題あり	□下回る			
(3) 事務事業の効率	 性 (コストに見合っ	た効果が	が得られたか、計画上のコ	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由			れる、身体障害者手帳所持者
効率的	□事業費抑制 □人員抑制			持者等に交付するものであ)にもハイヤーが必要となる
	□時間短縮・作業	ための はない		っており、コスト削減の余地
■効率的/概ね効率 ■的/課題あり	軽減	14/40	0	
	■その他			
	ヹおり事業を進めるこ		当 B:事業の進め しが必要 D:事業の統合	
自己評	価(一次評価)		評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A			
	必要な障がい者への 現状を維持すること			
がい者に対する生活	舌及び福祉の向上を	図るう		
えでも、計画とおり 判断する。	事業を進めることが	過当と		
今後の展開方	(Action)		
	/現状維持			
	必要な障がい者へ対 、障がい者の足とし			
すべきものであるた	め、当分は現状維持			
である。				
* 展開方向の区分				
	・又は 拡充 又は 縮小 又	(は 統合	〇終了 〇休止	〇廃止
5 その他特記事	項			

<u>整</u>理番号 5-37

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· ナ 切テ 木ツ						<u> </u>			
事務事業名	雄武町身体障害	害者福	祉協会運営補	助事業					
	担当課・係名	担当課・係名 保健福祉課社会福祉係							
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	/c d; ≠	職名	主事補			
	林 友 守	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	川口敦史			
事業の概要		り振興	に寄与するとと			福祉協会の活動活性 こを図るため、運営費			
	第5期総合計画	€	養載事業	□非登載事	業				
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~			
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	9	障がい者支援	援の充実					
事業の位置的け	単位施策	1	自立支援対策	の推進					
	事務事業の種類	■É	目治事務	□法定受託	事務				
	その他計画・根抗	処等							
	年 度	平	[成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)			
事業コスト	総事業費		30千円	3 0	千円	30千円			
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		30千円	3 0	千円	30千円			

【誰、何が (対象)】	雄武町身体障害者福祉協会		望ましい指標 (目的達成 理論上の成果指標)	t状況を最 	きもす 	端的に表す
┃ 【抱える課題やニ ーズは】	運営基盤が脆弱である。		前年度の実績との比較	交		
V 1.0.2		指	指標(指標計算式/解説)		_	び実績値
【どのような状態		標	1	目標年		19 年度
_	事業運営の円滑化を図る。		本年度補助額÷前年	日 標		30 千円
すのか (意図)】	尹未建善の口用して囚る。	目	度補助額	実績	値	30 千円
900万、(本四/1		標		達成	度	100 %
【その結果、どの	協会事業の振興に寄与する		2	目標年		年度
ような成果を実現	とともに、福祉の向上とス			日 標	値	
したいか】	ムーズな運営				値	
※成果=目的	ムー人は廷吉			達成	度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)			
①補助金	協会の運営費の補助をした。)				
2						
3				<u></u>		

3 事務事業の評 (1) 事務事業の必要	**	・ :会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務
事業	を実施しない場合の □義務的なもの	支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性) 障害者が集まる、団体の運営に対し補助を行うことにより
必要	□全部 □一部	交流等の活動を促進させ、精神のうるおい、福祉の向上に繋 がるため、必要と考える。
必要/概ね必要/ 課題あり		
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果が	が得られたか)
有効	設定した目標値 の達成状況 □達成	協会のスムーズな運営が図られた。
有効/概ね有効 /課題あり	□ほぼ達成 □下回る	
(3) 事務事業の効率	枢性 (コストに見合っ	た効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)
効率的	判断の理由 □事業費抑制 □人員抑制 □時間短縮・作業	本協会の運営規模等は、他の団体との均衡が図られていると考えられる。
効率的/概ね効率 的/課題あり	■時間短幅*1F来 軽減 ■その他	
	- ~ D 】 どおり事業を進めるる 現模、内容、実施主体	

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本団体は、多くの障害者が集まり交流する場であるため、団体の維持、存続は福祉向上のため必要不可欠なものである。		

今後の展開方向

(Action)

継続/現状維持 本団体は、障害者福祉の向上に大きな役割を 担っており、その団体の運営に対し助成するこ とは、多大な意味を持つものと考えられ、継続、 現状維持が妥当と判断する。 *展開方向の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了 〇休止 〇廃止

5	そ	ന	船	特	記	事	頂
J		v	11125	7श		#	75

	くいしつおう			
-				

<u>整理番号 5-38</u>

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事:	務事	業名	障害程度区分	分認定事	業			
			担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係			
評	価	者	細巨体	職名	保健福祉課長	ルボタ	職名	主査
			課長等	氏名	葛 西 隆	—— 作成者 ——	氏名	武藤知憲
事:	事業の概要 障害者自立支援法に基づく、障害福祉サービスの支給決定を行う際、利用の可否及び報酬単価の決定を行うため、障害程度区分の調査を行い、障害程度区分の判定を行う。							
			第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業	
			政 策 目 ፣	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
* *	¥∧⊬	置付け	基本政策	策 9	障がい者支援	の充実		
す オ 	そのが		単位施:	策 1	自立支援対策	の推進		
			事務事業の種	類	自治事務	□法定受託	事務	
			その他計画・	根拠等	障害者自立支	援法		
		-	年	度 平	⁷ 成18年度	平成19年	度 :	平成20年度(予定)
'	-14	スト	総事業	費	140千円	1 2 2	千円	160千円
	(実	績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		2 1 千円	4 8	千円	80千円

【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	障害程度区分認定調査員や 認定審査会委員の後任育成	指	障害程度区分の認定記 指標 (指標計算式/解説)	間査及び審査判定
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	障害程度区分の適正な判定	標/目標	① 障害程度区分認定 者人数	目標年度 19年度 目標値 10人 実績値 10人 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	障害者福祉の向上		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
① 障害程度区分の 認定調査	資格を有する障害程度区分割 ービスの支給決定の可否及で			
② 障害程度区分の 認定審査	障害程度区分の認定調査に	基づる	き、審査会委員において智	審査判定を行う 。
3				

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

					∃う必要があるか。当該事務 や見直しによる対応可能性)
必要 必要/概ね必要/	■義務的なもの ■全部 □一部	本事業 決定を を実施	は、障がい者 行 う ためにク	での福祉サーヒ でくことのでも 町民が必要と	ごスの支給決定及び支給量のきないものである。当該事業: するサービスを受けられな
課題あり	<u> </u> 別性 (期待する効果 <i>!</i>	が得られ	<i>t-t</i> y)		
有効	が住 (新侍する効果) 設定した目標値 の達成状況 ■達成	当該事	業を実施した	たことにより、 テうことがで	、障がい者の福祉サービスの きた。
 有効/概ね有効 /課題あり	□ほぼ達成 □下回る				
	-	た効果が	 バ得られたか	、計画上のコ	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由				まとめて実施したため、事
効率的	■事業費抑制 □人員抑制 ■時間短縮・作業				経滅を図ることができた。 判断している。
効率的/概ね効率 的/課題あり	軽減 □その他				
	_ どおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 - 、休・廃止の検討が必要 -
自己評	· 価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
決定するため、障害 可欠である。障がい	サービス支給及び支 程度区分認定事業は 者における生活及び も計画どおり事業を ⁻ る。	必要不 福祉の			
今後の展開方	(Action))	•		
障害程度区分の認定 援法や町の条例でも	∕現状維持 ピについては、障害者 規定されており、町 務である。当分は現	が実施			
	・ ・ マは 拡充 又は 縮小 又	ば 統合	〇終了	〇休止	〇廃止
こ その仏社司吉	·- - -				

5 その他特記事項

<u>整理番号 5-39</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	障害者自立	支援給付	事業			
	担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係	:		
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TF风石	氏名	武藤知憲
事業の概引	たの概要 障害者自立支援法に基づく、障害福祉サービスの利用に対する支援費を支給している。					
	第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業	
	政 策 目	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	• 福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置付ℓ	基本政	策 9	障がい者支援	の充実		
● 事 未の位直的に 	単 位 施	策 1	自立支援対策	の推進		
	事務事業の種	類 ■自	■自治事務 □法定受託事務			
	その他計画・	根拠等	障害者自立支	援法		
	年	度平	" 成18年度	平成19年	度 :	平成20年度(予定)
事業コス	総 事 業	費 60	0,899千円	71,025	千円	73, 166千円
(実績)	総事業費の内域 町が負担した会 (一般財源)		3,845千円	16, 580	千円	18, 292千円

【誰、何が(対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	施設入所等の地域移行	指	障がい者が利用する+ 費の扶助 指標(指標計算式/解説)	ナービスに対する給付
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】		標/目標	1 給付人数	日標年度 19年度 目標値 43人 実績値 43人 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	障がい者とそうでない方が 共生できる。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内容(どのような	手段	で何を行ったか)	
① 障害福祉サービスの給付	障害程度区分の認定及び町(福祉サービスの給費費を扶助			き、障がい者が利用する
2				
3				

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要があるか	、。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障。	既存事務事業との機	能重複や見直しによる。	対応可能性)

- 学术	で天心しない場合の	又呼、以	计争协争未	この成形主後	で元旦してよる対心可能は
S. —	■義務的なもの				費の扶助を行うことは、欠
必要	■全部 □一部				業を維持することは町の責いと、福祉サービスの利用を
必要/概ね必要/	-				家族に影響を及ぼす。
■必安/(概ね必安/ ■課題あり					
(2) 事務事業の有効	効性 (期待する効果/	が得られ	たか)		
	設定した目標値	当該事	業を実施した	たことにより、	障がい者の福祉サービスの
有効	の達成状況	適正な	支給決定を	行うことができ	きた。
	■達成				
┃ 有効/概ね有効 ┃ /課題あり	」□ほぼ達成 □下回る				
	-		が得られたか	計画上のコ	 ストを下げる工夫をしたか)
(0) 4374077	判断の理由	1			に要する時間及び作業が軽
拉拉拉	□事業費抑制	減され		(1-0,)(- 1))	
効率的	□→未負抑制				
	□八貝が初				
効率的/概ね効率	軽減				
的/課題あり	□その他				
l l	どおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 - 、休・廃止の検討が必要 -
自己評	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
	_ を必要とする障がい	<u></u> 者にと			
って、給付費の扶助	かは必要不可欠であり	、障が			
	Lの向上を図るうえて うることが適当と判断				
四このり争未を進め	7のことが過当と刊例	1900			
今後の展開方	(Action)			
継続	/現状維持				
障害福祉サービス <i>の</i>)給付費の支援につい				
	こも規定されており、 D責務である。当分は				
虺りることはヨ然の 持が必要である。) 貝伤でめる。ヨガは	、現仏雅			
7,10,22,000					
* 展開方向の区分 ・ 〇継続 /現状維持	持又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止
		- · • · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u> </u>	⊕ rr-	
5 その他特記事	· <u>埃</u>				

<u>整理番号 5-40</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事	務事	業名	障害者等地域	障害者等地域生活支援事業					
			担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係				
評	価	者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長	
			林文寺	氏名	葛 西 隆	1FJX/1	氏名	宇野敏志	
事	障害者自立支援法に基づく市町村事業として、障がい者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるための支援を行い、障がい者等の福祉の増進を図る。								
			第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業		
			政 策 目 ፣	標 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~	
車4	きの位置 かんしゅう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅうしゅう しゅうしゃく しゅうしゃく しゅうしゅう しゅうしゃく しゅう しゅうしゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく	副分子	基本政策	策 9	障がい者支援の充実				
す オ 	トリルほ	1111/	単位施	策 1	自立支援対策	の推進			
			事務事業の種	類	自治事務	□法定受託	事務		
			その他計画・	根拠等	障がい者計画				
			年	度 引	Z 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
1		スト	総事業	費	585千円	2, 771	千円	3,750千円	
	(実)	責)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		0千円	9 3 1	千円	1, 164千円	

【誰、何が (対象)】	障がい者等		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	障害者自立支援法に基づく 障がい者等への支援	指	サービスの提供 指標 (指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】		標/目標	① サービスの提供	目標年度 目標値 実績値 度成度	年度 %
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	障がい者等の福祉の増進が 図られる。		2	目標年度 目標値 実績値 度	年度
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①サービスの提供	本町の基準に基づき、日常生 供を行う。	E活用	月具の給付や日中一時支 援	そなど各種サー	ービスの提
2					
3					

~ + 24 + 44 A = T	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			8
3 事務事業の評	• •			
	•		こ照らして妥当か、町が担∃ ₹存事務事業との機能重複や	
事 本			は任事物争業との機能重複で 自立支援法によるサービス	
必要	□義務的なもの		る福祉の増進のために必要	
处安	□全部 □一部			
	1			
課題あり				
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果か	が得られ	<u>たか) </u>	
	設定した目標値	1	基準に基づき支給量の決定	
有効	の達成状況	の決定	及び障がい福祉の向上が図	られている。
• •	■達成			
有効/概ね有効	□ほぼ達成			
/課題あり	□下回る	<u> </u>		
(3) 事務事業の効率	፩性 (コストに見合っ		が得られたか、計画上のコス	
!	判断の理由		自立支援法に基づく事業で	あり、これ以上のコスト削!
効率的	□事業費抑制	減は困	難である。	
,	□人員抑制			
	□時間短縮・作業			
┃効率的/概ね効率 ┃的/課題あり	軽減			
的/味起めり	■その他			
4 総合評価【A	~ D.1			
		ことが適	当 B:事業の進め方	う等に改善が必要 ー
			しが必要 D:事業の統合、	
自己評	価 (一次評価)	_	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A			
 障害者自立支援法に	 -基づく事業であり、	<u></u>		
	の増進のため計画ど			
業を進めることが適	₫当である。			
今後の展開方向	(Action))		
	/現状維持			
	基づく事業であり、	当分は		
現状維持が適当であ				

5 その他特記事項

〇休止

〇廃止

*展開方向の区分 〇継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 〇終了

<u>整理番号 5-41</u>

1 事務事業の表示

※ ■:該当

車	発 3	事業	名	西紋地区療育	育センタ	一運営負担金	金及び西紋地地	或発達:	支援センター運営		
.	·121 -	<i>-</i>	П	負担金	負担金						
				担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係	:				
評	ſ	西	者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	主査		
				林文寺	氏名	葛 西 隆	TFIX日	氏名	武藤知憲		
				障がいやその	心配のあ	る子どもを対象	マニュ に早期発見と耳	型期療育	、各種療育相談等を		
事	業(の概	要						療育センターと発達 アンターに対し、西紋		
						文族を目的とり 営費の負担をし		ミ又 抜て	ンダーに対し、四級		
				第5期総合計員	画	登載事業	□非登載事	 業			
				政策目	漂 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	• 福祉	の充実~		
+ *	* ~ <i>l</i>	立置作	+14	基本政策	策 9	障がい者支援	の充実				
→ オ	モリン 1	ᅩᄩ	,,,	単位施	策 2	ニーズに対応	した教育・保育	の推進			
				事務事業の種類	類 ■自	目治事務	□法定受託	事務			
				その他計画・	根拠等						
				年	度平	[成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
1 -	•••	コス	۲	総事業	費	795千円	482	千円	2 6 1 千円		
	(実	績)		総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		795千円	482	千円	2 6 1 千円		

【誰、何が(対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	t状況を最も端的に表す 						
【抱える課題やニ ーズは】	障がいやその心配のある子 どもの早期発見	指	負担金による運営費の 指標 (指標計算式/解説)	の負担 						
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	障がいやその心配のある子 どもの早期治療	標/目標	① 利用者人数	目標年度 19年度 目標値 6人 実績値 6人 達成度 100%						
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	早期発見と早期治療により 未来の雄武町を担う後継者 を育成する。		2	日標年度 年度 日標値 実績値 達成度 %						
	内 容(どのような手段で何を行ったか)									
① 運営費の負担	① 運営費の負担 西紋5市町村において、西紋地区療育センター及び西紋地域発達支援センターの 運営費を一部負担し、障がいやその心配のある子どもに対して支援を図る。									
2										
3										

3	事務事業の評価	(Check)
J	争物争未以計画	CHECK

					!う必要があるか。当該事務 や見直しによる対応可能性)
必要 必要/概ね必要/	□義務的なもの □全部 □一部	種療育で運営を	相談等を行い、 費を負担する: 当該事業を実施	子どもとその家 ものであり、町か 返しない場合、随	対象に早期発見と早期治療、各 家庭を支援する専門機関に対し が支援を維持することは必要で 章がい者やその心配のある子ど
課題あり		もなら	びにその家族に	こも影響を及ぼ	す。
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果が				
有効	設定した目標値 の達成状況 ■達成	子ども	ならびに家族	族に対し、精神	障がい者やその心配のある 神的な余裕や安心を育み、今 『族からの相談に対しても支
 有効/概ね有効 /課題あり	■達成 □ほぼ達成 □下回る		たさなかった		(族からの相談に対しても文
	-	た効果が	が得られたか	、計画上のコス	
	判断の理由				対別市、興部町、西興部村、
効率的	■事業費抑制 □人員抑制 □時間短縮・作業	り、障 ための	がい者やその 必要最低限の	心配のある子	利用割に区分し負担してお ·ども等への支援を維持する ょっており、コスト削減の余
効率的/概ね効率 的/課題あり	軽減 □その他	地はな	い。		
	どおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 - 、休・廃止の検討が必要 -
自己評	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
族に対し、両センタ 状を維持することは	記のある子どもなら 一は必要不可欠であ t、障がい者等の生活 ぎも、計画どおり事業 fする。	る。現や福祉			
今後の展開方向	(Action)			
継続	/現状維持				
期発見や早期療育と	障がい者やその心配のある子どもにとって早期発見や早期療育という障がい者支援の充実という役割を担い、現在利用している町民にと				
ってサイクルに溶け	込んでおり、最低限	の障が			
	『保すべきものである ある。また当町だけ				
	いる近隣自治体の関				
*展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	(は 統合	〇終了	〇休止	〇廃止
5 その他特記事	項				

整理番号 5-42

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	ひとり親家庭等	ひとり親家庭等・乳幼児医療給付事業						
	担当課·係名	呆健福	祉課社会福祉係	:				
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	<i>II</i> c + +	職名	主査		
	林文寺 —	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲		
事業の概要	ひとり親及びその子どもならびに乳幼児等に対し、疾病の早期発見と早期治療を 促進し、保健の向上と福祉の増進を図ることを目的として医療費の一部を給付し ている。							
	第5期総合計画	■差	養載事業	□非登載事	業			
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~		
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	基本政策 8 子育ち・子育ての充実						
事業の位置的け	単位施策		3(少子化問	題への対応) 4	(ひと	り親家庭等の充実)		
	事務事業の種類	■ É	自治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・根	拠等	雄武町重度心身障	害者及びひとり親家	庭等の医	療費の助成に関する条例等		
	年 度	<u> </u>	" 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	9	,487千円	9, 206	千円	11,310千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		,416千円	5, 327	千円	7, 250千円		

【誰、何が(対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	医療費の増崇	指	医療費の給付 指標 (指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	医療費の支援	標/目標	① 助成人数	目標年度 19年度 目標値 341人 実績値 341人 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	町民の保健福祉の向上が図 られる。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内容(どのような	手段	で何を行ったか)	
① ひとり親家庭等 給付	対象者が窓口にて助成の申記	青を彳	テい、審査のうえ、医療 費	貴を給付した。
② 乳幼児医療給付	対象者が窓口にて助成の申記	清を	テい、審査のうえ、医療 養	きを給付した。
3				

3	事務事業の評価((Chack)
J	争伤争未以計画・	

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

	□義務的なもの	ひとり	親世帯にお	ける親子及び乳	乳幼児等の医療費の一部を
必要	□全部 □一部	保健の)向上と福祉(の増進を図るが	記断と早期治療を促進し、 ため、町の支援は必要であ
必要/概ね必要/ 課題あり	-			更しない場合、 られ、健康に影	町民が必要とする診療を受 <響を及ぼす。
(2) 事務事業の有効	効性 (期待する効果が	が得られ	たか)		
有効	設定した目標値の達成状況	当該事図られ		たことにより、	保健の向上と福祉の増進が
有効/概ね有効	■達成 □ほぼ達成				
/課題あり		/ ±1 m	18/12 5 1 1 1	-11	_ , , & , _ , _ , _ , _ , _ , _
③事務事業の効益	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				ストを下げる工夫をしたか)
効率的	判断の理由 □事業費抑制 □人員抑制 ■時間短縮・作業	月の児 乳幼児	産扶養手当の については、	D現況届の提出 更新案内に申	療給付事業については、8 は時に申請書の提出を求め、 請書を同封するなど、時間、 ト削減の余地はない。
効率的/概ね効率 的/課題あり	軽減□その他				
	どおり事業を進めるこ				方等に改善が必要 - 、休・廃止の検討が必要 -
自己評				価(二次評価)	
	Δ				
ひとり親家庭等におけ	. ける親子及び乳幼児をも	 うつ家庭			
にとって、医療費の給	付は必要不可欠なもの	である。			
	見状を維持することは、 E図るうえでも、計画と				
業を進めることが適当		- 03 9 - 1			
今後の展開方	(Action)			
継続。	/現状維持				
	現子及び乳幼児に対	する医			
	の早期診断及び早期				
■ 促進するため、町の ■ 現状維持が必要であ)支援は必要であり、 うる。	当分は			
30 PORT 19 70 20 20 CO.	, • •				
· B 明 士 士 本 豆 ハ					
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止
		,,,,,,,,,,	- 47 -	 	
5 その他特記事	· <u>垻</u>				

整理番号 5-43

1 事務事業の表示

※ ■:該当

	24.3.					☆ ■ . 改当
事務事業名	雄武町母子会	全運営補	助事業			
	担当課·係名	保健福	业課社会福祉係			
評 価 者	== E #=	職名	保健福祉課長	<i>ル</i> ポ **	職名	主査
	課長等	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	武藤知憲
事業の概要			帯)で組織され 福祉向上を図る			活動活性化と、母子 行っている。
	第5期総合計	画	養載事業	□非登載事	業	
	政策目	漂 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	策 8	8 子育ち・子育ての充実			
事未の位直的!) 	単位施	策 4	ひとり親家庭	支援の充実		
	事務事業の種類	類 ■自	1治事務	□法定受託	事務	
	その他計画・	根拠等				
	年	度平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)
事業コスト	総事業	費	20千円	2 0	千円	2 0 千円
(実績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		20千円	2 0	千円	20千円

【誰、何が(対象)】	雄武町母子会		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	ҟ状況を最も 	端的に表す
【抱える課題やニ 一ズは】	母子会の活性化	16			
		指	指標(指標計算式/解説)		び実績値
【じのトンか件能		標	1	目標年度	年度
【どのような状態 になることを目指	母子会の活動活性化と事業	/		目標値	
•	振興	目		実績値	
すのか(意図)】		標		達成度	%
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現	母子会活動のスムーズな運			目標値	
したいか】	営が促進される。			実績値	
※成果=目的				達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
① 雄武町母子会運	雄武町母子会に対して運営	費の神	補助を行う。		
営補助金の交付					
2					
3					

\sim	事務事業の評価	/ ヘト・・1・ハ
	半 水 半 羊 //) = 业 (m)	I I TOPOKI

(1) 事務事業の必要性	生(町民ニーズ・	社会情勢に照ら	して妥当か、町が	が担う必要があるが	か。当該事務
事業を	実施しない場合	の支障、既存事業	務事業との機能重	複や見直しによる	対応可能性)

	□義務的なもの	7			るため運営費補助の交付		
概ね必要	□全部 □一部		要であると# [障を来たする		事業を実施しない場合、	連	
必要/概ね必要/ 課題あり							
(2) 事務事業の有效	奶性 (期待する効果が	が得られ	たか)				
概ね有効	設定した目標値 の達成状況 □達成	当該事	「業を実施し <i>†</i>	こことにより、	各種事業が円滑に実施さ	きれ	
 有効/概ね有効 /課題あり	■ほぼ達成 □下回る						
	-	た効果が	····································	<u></u> 、計画上のコス	ストを下げる工夫をした:	か)	
(3)	判断の理由				申的な支えとなる団体で		
概ね効率的	□事業費抑制 □人員抑制 □時間短縮·作業	り、円 程度、	滑な運営を図	図るうえでも、	補助を行っているが、あ 定しているが、コスト削	58	
効率的/概ね効率 的/課題あり	軽減 ■その他						
A:計画	4 総合評価【A~D】 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方等に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要						
自己評	価 (一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)	
	Δ						
して、母子会の存続 を維持することは、	った町民の精神的な は必要不可欠であり 町民の生活及び福祉 画どおり事業を進め	、現状 の向上					
今後の展開方	(Action)					
継続	/現状維持						
町の補助金に依存し	あるが、今後の動向 しない団体として自 ただ、当面は現状維	立する					
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止 (○廃止 ○廃止		
5 その他特記事			~ 17 5				
_							

整理番号 5-44

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	特別養護老人	ホーム	、等施設運営支	泛援事業			
	担当課·係名	保健福祉	祉課社会福祉係				
評 価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長	
	森文寺	氏名	葛 西 隆	TFIX石	氏名	宇野敏志	
事業の概要		特別養護老人ホーム等の指定管理者制度による事業委託に伴い、委託先法人の運営基盤安定を図るため、財政支援を行う。					
	第5期総合計画	□叠	養載事業	■非登載事	業		
	政 策 目 標	2	2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜				
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	7	7 高齢者支援の充実				
事果の位直的!) 	単 位 施 策	1	介護サービス	の充実			
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務					
	その他計画・根	拠等					
	年 度	平	^Z 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
事業コスト	総事業費	5	,000千円	10,000	千円	0千円	
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		,000千円	10,000	千円	0千円	

【誰、何が (対象)】	雄武町社会福祉協議会		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	状況を最も端的に表す
【抱える課題やニ ーズは】	運営基盤が脆弱である。	指	委託先法人の運営基盤の 指標 (指標計算式/解説)	D安定 目標値及び実績値
【どのような状態 になることを目指 すのか (意図)】	運営基盤の安定を図る。	標/目標	① 委託先法人の運営 基盤の安定	目標年度 19年度 目標値 10000千円 実績値 10000千円 達成度 100%
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	特別養護老人ホーム等の安 定的な経営が図れる。		2	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①雄武町社会福祉協議会への運営費補助 ②				こ伴い、委託先である雄
3				

2 東変東業の証	(Chaok)				裹
	性(町民ニーズ・社				う必要があるか。当該事務
事業	を実施しない場合の				5見直しによる対応可能性)
_{.>,} ==	□義務的なもの	特別養 る。	護老人ホー.	ム等の安定経過	営のため、必要不可欠であ
必要	口全部 口一部	· o o			
必要/概ね必要/					
課題あり					
(2) 事務事業の有望	奶性 (期待する効果が				
士 恭	設定した目標値 の達成状況	委託先	法人による	事業の安定経営	が図られた。
有効	■達成				
 有効/概ね有効	□ほぼ達成				
/課題あり	□下回る				
(3) 事務事業の効率	陸性 (コストに見合っ	た効果だ	が得られたか	、計画上のコス	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由	安定経	営を図るため	り、コスト削減	は難しい。
効率的	□事業費抑制				
	□人員抑制				
	│□時間短縮・作業│ 軽減				
的/課題あり	軽減 ■その他				
4 総合評価【A		- しょぐ卒	₩ D	古光の光は	上生上北美杉心市
	どおり事業を進めるこ 現模、内容、実施主体				ヮ寺に欧善か必安 ・休・廃止の検討が必要 ―
自己評				価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
特別養護老人ホーム	等の安定経営を図る	ため、			
計画どおり事業を進	めることが適当であ	る。			
今後の展開方向	(Action)	\			
フ仮の展開力	(Action)	,	4	-	•
終					
	これであり、平成19	年度を			
もって終了した。					
*展開方向の区分	F又は 拡充 又は 縮小 又	+纮△	○終了	O# + 4	○廃止
○極税/現仏維持	又は加工又は陥小又	.lよ 杌 百	〇終了	〇休止 (〇廃止

5 その他特記事項

<u>整理番号 5-45</u>

1 事務事業の表示

※ 📘 : 該当

事	務事	業名	介護サービス	介護サービス事業特別会計繰出金					
			担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係				
評	佃	i 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長	
			林文寺	氏名	葛 西 隆	TFIX任	氏名	宇野敏志	
事	業の)概要	特別養護老人た。	ホーム等	の拡張整備に何	伴い、介護サー	ビス事	業特別会計を設置し	
			第5期総合計	画 口登	養載事業	■非登載事	業		
			政策目	漂 2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~	
車4	⊭ለሥ	置付け	基本政策	策 10	地域福祉の推	地域福祉の推進			
† 7	E U) III		単位施	策 1	福祉意識の醸	成			
			事務事業の種類	類	■自治事務 □法定受託事務				
			その他計画・	根拠等					
			年	度平	" 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
1	-1-	スト	総事業	費	千円	1, 040	千円	2, 166千円	
	実	績)	総事業費の内雄 町が負担した金 (一般財源)		千円	1, 040	千円	2, 166千円	

【誰、何が (対象)】	雄武町		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す 理論上の成果指標)				
【抱える課題やニ 一ズは】	介護サービス事業特別会計 の歳入不足		介護サービス事業特別会	会計の歳入不	足の解消		
7 1,0.2		指	指標 (指標計算式/解説)	目標値及	び実績値		
【どのような状態		標	1	目標年度	19年度		
になることを目指	介護サービス事業特別会計		/介護サービス事業特		1040 千円		
すのか(意図)】	の歳入不足の解消	目	別会計の歳入不足の解	実績値	1040 千円		
) 07/0 (/EXPERIA		標	消	達成度	100%		
【その結果、どの			2	目標年度	年度		
ような成果を実現	介護サービス事業特別会計			目_標_値_			
したいか】	の運用			実績値			
※成果=目的				達成度	%		
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)				
①介護サービス事業	* 介護サービス事業特別会計の	の歳ん	入不足分を一般会計より終	彙入を行った	0		
特別会計							
2							
3							

3 事務事業の評	価(Check)					
(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務 事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)						
事業					<u>や見直しによる対応可能性)</u> ビス収益がないため、一般会	
必要	□義務的なもの			分の繰入は必		
	□全部 □一部					
必要/概ね必要/ 課題あり						
	効性 (期待する効果が	が得られ	たか)			
	設定した目標値	必要額	の繰入によ	り、歳入不足	とならなかった。	
有 効	の達成状況					
	■達成					
有効/概ね有効	□ほぼ達成					
/課題あり		土动用力	ジョンカナゴ		フレナエばフエナナレナム)	
(3) 手務争系の効果	<u> </u>				ストを下げる工夫をしたか)	
	判断の理由	少 安額	の裸人でめ	り、コスト削液	咸は不可能である。	
効果的	□事業費抑制					
	□人員抑制 □時間短縮・作業					
効率的/概ね効率	上野間 15 未					
的/課題あり	■その他					
l l	_ ビおり事業を進めるこ				が方等に改善が必要 ・、休・廃止の検討が必要 -	
自己評	価 (一次評価)		評価会議	評価(二次評価)	町長評価(三次評価)	
	A					
必要額のみの繰入で	あり、計画どおり事	業を進				
めることが適当と判	川断する。					
今後の展開方	(Action))				
継続	/現状維持					
	分の繰入が必要であ	る。				
* 展開方向の区分 〇継続/現状維持	F又は 拡充 又は 縮小 又	.は 統合	〇終了	〇休止	〇廃止	
				- • •		
5 その他特記事	·項					

整理番号 5-46

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事務事業名	老人福祉施設	改修事	業					
	担当課·係名	保健福祉	业課社会福祉係					
評価 者	課長等	職名	保健福祉課長	作成者	職名	社会福祉係長		
	林文寺	氏名	葛 西 隆	TF风石	氏名	宇野敏志		
事業の概要	経年経過により老朽化している寿の家について、改修整備を行い施設の適正管理 を図る。							
	第5期総合計画 ■登載事業 □非登載事業							
	政 策 目 標	2 ぬくもり・雄武~保健・医療・福祉の充実~				の充実~		
事業の位置付け	基本政策	7	7 高齢者支援の充実					
● 事 未の位直的け	単 位 施 策	3	社会参加の促	進				
	事務事業の種類	. ■ É	1治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・根	拠等						
	年 度	王 平	成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	t	千円	7 9 1	千円	870千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)		千円	791	千円	870千円		

【誰、何が (対象)】	高齢者等の活動拠点施設		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	₹状況を最も∮ 	端的に表す
┃ 【抱える課題やニ ーズは】	施設の老朽化		改修施設		
-	! !	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態	 	標	① 改修施設	目標年度	19年度
になることを目指	活動拠点の整備、施設の延	_		目標値	1施設
すのか(意図)】	命化	目		実績値	1施設
9 07/17 (志四/1		標		達 成 度	100%
【その結果、どの			2	目標年度	年度
ような成果を実現	高齢者等の社会参加、生き			目標値	
したいか】	がい活動の促進			実 績 値	
※成果=目的				達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①施設の改修	魚田寿の家の改修工事を行っ	った。			
2					
3					

っ 車変車業の部	(Chaok)				A
3 事務事業の評		-	-昭にして頭	当ち 町が担	う必要があるか。当該事務
	•				り見直しによる対応可能性)
	□義務的なもの	高齢者	等の社会参加	ロ、生きがい活:	動の促進を図るための拠点
必要	口全部 口一部	整備と	して必要で	ある。	
┃必要/概ね必要/ ┃課題あり					
	<u>│</u> 奶性 (期待する効果が	(担こわ	t- tv)		
(2) 争労争未り行為	別は、期待する効果が 記定した目標値			古野老佐の江	計加上の数供した訳のなみ
左 林	│設定した日保値 │の達成状況		以修により、 られた。	局断有等の活	動拠点の整備と施設の延命
有効	■達成	1077-12	1010120		
 有効/概ね有効	□ほぼ達成				
/課題あり	□下回る				
(3) 事務事業の効率	- 	た効果だ	が得られたか	 、計画上のコ <i>ス</i>	ストを下げる工夫をしたか)
	判断の理由	見積り	合せにより、	適正価格でエ	 :事を発注した。
効率的	■事業費抑制				
X) (T P)	□人員抑制				
	□時間短縮・作業				
効率的/概ね効率	軽減				
的/課題あり	□その他				
- An A == I== F -	_ •				
4 総合評価【A		- しょご本	ıv D	東娄の冶め-	七年に北美杉立市・・・
	どおり事業を進めるこ 見模、内容、実施主に				ク寺に欧普か必安 .休・廃止の検討が必要 <i>―</i>
	· (一次評価)	1147 76 122		価(二次評価)	町長評価(三次評価)
			411000000		
	て利田でもフレン社	画 じ お			
ら脚石等が女心し り事業を進めること	て利用できるよう計 ·が適当である。	囲とお			
グ事業を延めること					
今後の展開方向	(Action)			
			•		•
継続	/現状維持				
	が安心して利用でき	るよう			
	業を進めることが適	当であ			
る。					
* 展開方向の区分					
	;又は 拡充 又は 縮小 又	は統合	〇終了	〇休止	〇廃止

5 その他特記事項

整理番号 5-47

1 事務事業の表示

※ ■:該当

事 彩	务事 業 名	児童手当支統	給事業					
		担当課·係名	保健福	祉課社会福祉係				
評	価 者	課長等	職名	保健福祉課長	<i>作</i> d 	職名	主事補	
		林文寺	氏名	葛 西 隆	──────── 作成者 ────	氏名	川口敦史	
事 業 の 概 要 12歳到達後、最初に迎える3月31日までの間にある児童(小学校修了前の児童)を養育している方に対して、児童手当を支給している。								
		第5期総合計	画	登載事業	□非登載事	業		
		政 策 目	政 策 目 標 2 ぬくもり・雄武〜保健・医療・福祉の充実〜					
車 樂.	の位置付け	基本政	策 8	子育ち・子育	ての充実			
李未 [*]	の位回りい	単 位 施	策 3	小子化問題へ	の対応			
		事務事業の種	類 □ 目	自治事務	■法定受託	事務		
		その他計画・	根拠等	児童手当法				
_		年	度平	" 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)	
	美コスト	総事業	費 23	3,335千円	29, 586	千円	30,660千円	
(実績)	総事業費の内域 町が負担した金 (一般財源)		,613千円	8, 719	千円	8,724千円	

【誰、何が (対象)】	町民		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	┆状況を最も∮ 	端的に表す
┃ 【抱える課題やニ ーズは】	例年増加する、子どもを養育 するために要する費用		交付状況		
	, 0,000	指	指標(指標計算式/解説)	目標値及	び実績値
【どのような状態	児童を養育している者に支給す	標/	(1) 交付実績	目標年度 目標 値	19 年度
になることを目指 すのか (意図)】	ることにより、生活の安定、児 童の健全な育成及び資質の向上	目	人门大惊	実績値	8, 724 千円
90/11(志四/1	単の健主は自然及い貝貝の門工	標	_	達成度	%
【その結果、どの	旧音な美奈している老の仕ばの		2	目標年度	年度
ような成果を実現	児童を養育している者の生活の 安定、児童の健全な育成及び資			目標値	
したいか】	女に、元里の健主な自成及い員 質の向上			実績値	
※成果=目的	「貝の円工			達成度	%
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)		
①給付	年3回に分けて、受給者	こ支と	出した。		
2					
3					

2	事務事業の評価	(Chook)
J	事務事表の評価	(Crieck)

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要がある	るか。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障、	既存事務事業との機	能重複や見直しによ	る対応可能性)

	<u>を美肔しない場合の</u>	文牌、以	t 仔争務争果。	との機能里復へ	兄担しによる刈心り能性)
必要	■義務的なもの				童を養育している者に支給 童の健全な育成及び資質の
	■全部 □一部	向上を	図るうえで必	必要と判断され	. 3 .
必要/概ね必要/ 課題あり					
(2) 事務事業の有效	効性 (期待する効果 <i>が</i>	が得られ	たか)		
	設定した目標値				ことにより、目的は十分達
有効	の達成状況 ■達成	成され	たと判断され	13。	
 有効/概ね有効	■ほび □ほぼ達成				
/課題あり	□下回る				
(3) 事務事業の効率	陸性 (コストに見合っ	た効果な	が得られたか	、計画上のコス	(トを下げる工夫をしたか)
	判断の理由				のが無く、町単独事業でも
効果的	□事業費抑制	ないた	め、削減箇所	fは無いものと	判断される。
	□人員抑制				
├ 効率的/概ね効率	│□時間短縮・作業 軽減				
的/課題あり	□ □その他				
	ヹおり事業を進めるこ				5等に改善が必要 - 休・廃止の検討が必要 -
自己評	価(一次評価)		評価会議評	価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A				
活の安定、児童の健全	6者に支給することによ ≧な育成及び資質の向上 尋業を進めることが適当	を図る			
今後の展開方	(Action))			
継続	/現状維持				
	事業であり、児童を養				
	:により、生活の安定、)向上を図るため、現∜				
適当と判断される。	「日上で回じたのだり」	(中田14)75			
*展開方向の区分			<u>I</u>		l
〇継続/現状維持	マは 拡充 又は 縮小 又	ば 統合	〇終了	O休止 (〇廃止
5 その他特記事	項				

整理番号 5-48

1 事務事業の表示

※ ■:該当

· ナ 切テネツ						/// <u> </u>		
事務事業名	指定訪問介護事	指定訪問介護事業運営補助事業						
	担当課・係名 保	:健福	祉課社会福祉係					
評 価 者	課長等	戦名	保健福祉課長	ルボキ	職名	社会福祉係長		
	林 技 奇	氏名	葛 西 隆	── 作成者	氏名	宇野敏志		
事業の概要	本事業は、高齢者等が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援するために欠かせない在宅介護サービスであり、町内唯一の指定業者である雄武町社会福祉協議会に対し、事業運営費の収入不足額の支援を行う。							
	第 5 期総合計画 ■登載事業 □非登載事業							
	政 策 目 標	2	ぬくもり・雄	武~保健・医療	・福祉	の充実~		
┃ ┃事業の位置付け	基本政策	7	高齢者支援の	充実				
事業の位置的け	単 位 施 策	1	介護サービス	の充実				
	事務事業の種類	■ É	自治事務	□法定受託	事務			
	その他計画・根拠	监等	介護保険事業	計画、高齢者保	:健福祉	計画		
	年 度		" 成18年度	平成19年	度	平成20年度(予定)		
事業コスト	総事業費	4	,200千円	4, 000	千円	4,000千円		
(実績)	総事業費の内雄武 町が負担した金額 (一般財源)	4	,200千円	4, 000	千円	4,000千円		

【誰、何が (対象)】	雄武町社会福祉協議会		望ましい指標(目的達成 理論上の成果指標)	は状況を最も端的に表す
 【抱える課題やニ 一ズは】	事業運営費の不足によりサ ービス提供を行うヘルパー の確保が困難である。	+15	ヘルパーの配置人員	
	の確保が、四難である。	指揮	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態	サービス提供体制の安定	標/	① /雄武町社会福祉協議	│目標年度 │ 19年度 │目 標 値 │
すのか (意図)】	り一て人徒供体制の女足	目	会のヘルパーの配置人	実績値 4人
7 07/3 (池四/1		標	員	達 成 度 100%
【その結果、どの			2	目標年度 年度
ような成果を実現	サービスを安定して提供す			目標値
したいか】	ることが可能となる。			実績値
※成果=目的				達 成 度 %
	内 容(どのような	手段	で何を行ったか)	
①雄武町社会福祉協	□ 指定訪問介護事業者であるが	進武田	町社会福祉協議会に対し、	事業運営費の収入不足
議会への事業運営費	₹│額を補助し、在宅介護サーⅠ	ごス(の安定供給を図る。	
補助				
2				
3				

3	事務事業の評価	(Check)

(1) 事務事業の必要性	(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、	町が担う必要がある	るか。当該事務
事業を写	実施しない場合の支障、	既存事務事業との機	能重複や見直しによ	る対応可能性)

	□義務的なもの				も、住み慣れた地域で自立し		
必要	口全部 口一部	た日常生活ができるように行うものであり、町内唯一の指定 訪問介護事業者である雄武町社会福祉協議会が在宅介護サ					
必要/概ね必要/				を図るため必			
W安/ 帆ね必安/ 課題あり							
(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)							
	設定した目標値	サービスの安定供給が可能となるホームヘルパーの4人確					
有効	の達成状況	保が可能となった。					
	■達成						
有効/概ね有効 /課題あり	│□ほぼ達成 □下回る						
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)							
効果的	判断の理由 □事業費抑制	演しており、今後の削減は困難である。					
	│□争未食抑制 │□人員抑制	"" TO COO) () [2 37 11 11 11 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15					
	│□八負印刷 │□時間短縮·作業						
効率的/概ね効率	軽減						
的/課題あり	■その他						
4 総合評価【A~D】B: 事業の進め方等に改善が必要C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要							
自 己 評 価 (一次評価) 評価会議評価(二次評価) 町長評価(三次評価)							
A							
社会福祉協議会が、在宅介護サービスの安定供							
給を図るため必要であり、計画どおり事業を進							
めることが適当である。							
今後の展開方向 (Action)							
継続	/現状維持						
	会が、在宅介護サー	ビスの					
	、当分は現状維持が	適当で					
ある。							
*展開方向の区分							
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止							
5 その他特記事項							